

- 図版(写真) 529点
- 地図 119点
- グラフ・図表 62点
(グラフ24+図25+表13)
- 文字資料 33点
- 二次元コード 22点

message



宮本英征
(みやもとひでゆき)
玉川大学准教授

「世界史探究」は、世界の歴史の大きな枠組みと展開について理解を深め、地球世界の課題とその展望を歴史的に探究する資質・能力を養うことをねらいとしています。生徒が現代世界の形成とその課題を探究するためには、一人一人の歴史に対する学びの意義や意味、動機が、これまで以上に重要になると考えられます。

そのため、『高校世界史』は、生徒が主体となって世界史を学べるように、問いを主体とする構成になっています。各部の最初には「アプローチ」を設け、生徒が問いを表現できるようにしています。「第I部へのアプローチ」では、生業、身分、宗教、王権などを観点にして史資料を読み解きながら、生徒が興味や疑問をもとに、問いを表現します。また、各章の冒頭には章を貫く問いを設け、その問いを探究するために節・図版・節末の問いを提示しています(▶p.44)。第I部の章の問いは、生業、身分、階級、王権、宗教、文化・思想などを観点に、諸地域の歴史的特質の形成を探究できるものです。節・図版の問いは、各地域の歴史的特質の理解を深め、節末の問いは、そこで学んだ歴史的特質を総括・概念化したり、今を生きる生徒に関連付けたりすることができます。

この教科書で、生徒が問いを表現したり、問いにもとづいて本文や図版を考察したりすることで、歴史を探究する面白さを感じ、主体的に歴史に向き合うことの意義や意味を見出してくれることを願っています。

高校世界史

世探705 B5判(257mm×182mm) 302頁 予価860円

【編者】

- 木村 靖二 東京大学名誉教授
- 岸本 美緒 お茶の水女子大学名誉教授
- 小松 久男 東京大学名誉教授
- 橋場 弦 東京大学教授

【著者】

- 阿部 幸信 中央大学教授
 - 池田 嘉郎 東京大学准教授
 - 勝田 俊輔 東京大学教授
 - 島田 竜登 東京大学准教授
 - 林 佳世子 東京外国語大学学長
 - 村上 衛 京都大学准教授
 - 小豆畑和之 東京都立西高等学校教諭
 - 仮屋園 巖 東京都立国立高等学校教諭
 - 宮本 英征 玉川大学准教授
- 株式会社 山川出版社



小豆畑和之
(あずはたかずゆき)
東京都立西高等学校教諭

学習指導要領には世界史探究の目標として、「資料等を適切に用いて、歴史にかかわる事象について考察、構想したことを効果的に説明する力」を養うことがあげられています。そこで『高校世界史』では、「探究しよう」のページを設け、グラフ・図版・文字資料の読み解きなどのスキル獲得の一つの目標としています。

例えば、第8章の「探究しよう」では、地図と文字資料の組み合わせから、約1000年前の宋の都市である開封を「探究」します(▶p.48)。この施設は何だろう、歩いて何分だろう、どんな日常生活だったのだろう、などの問いを導入として、生徒同士で意見交換してほしいと思います。想像図を描いてみようという指示すると、生徒は、建物の大きさや壁の色、行きかう人の服装などについて考察し、自発的に当時の資料を調べます。嗅覚や聴覚についての問いも同様です。歴史の授業では五感を活用することはあまりありませんでしたが、この資料から当時の調理法などに興味を持ってもらえれば、家庭科と協力する教科横断的な授業展開もできます。同様な都市探究には第II部のアプローチ「カイロとウィーン」もあるので、発展学習に利用していただきたいと思っております(▶p.47)。

その他の「探究しよう」では、「絹織物」「綿織物」や「気候の寒冷化」「科学革命」なども取り上げており、ほかの教科との協力や、SDGsとの関連も意識させることができるかと思っております。

基本をおさえて、資料で深める

1 要点をおさえた、わかりやすい教科書

- 『詳説世界史』の章立てに準拠し、簡潔で読みやすい表現に改めました。
- 図版529点、地図119点、グラフ・表37点を掲載しています。(▶p.51)
- 人物コラムも83点掲載しています。(▶p.51)

2 「探究」の構造を理解できる、問いを中心とした展開

▶p.44-47

- 部冒頭の「アプローチ」で、各部の歴史的な特徴や視点を大きく捉えることができます。
- 学習指導要領に沿って、章・節・図版・節末に問いを設定し、問いを主体とした展開のなかで「探究」の学習を進めることができます。

3 資料読み解きのスキルが身につく

▶p.48-49

- 「探究しよう」を28点掲載。グラフ、図版、文字資料の読み解きなど、様々なスキルが身につきます。
- 資料を読み解く問いから発展的な問いまで、様々な問いを設定しています。
- 二次元コードを22点掲載しています。(▶p.43、51)

関連教材

授業準備／テスト／評価に

教師用指導書
授業実践編 (▶p.52-57)

デジタル
教師用指導書
授業実践編
付属データ集 (▶p.58-61)

教師用指導書
研究編 (▶p.57)

授業／予習・復習に

準拠ノート・
補助教材 (▶p.62-65)

デジタル
デジタル
教科書 (▶p.90-92)



仮屋園 巖
(かりやどのいわお)
東京都立国立高等学校教諭

「世界史探究」における「世界史へのまなざし」は、この科目の導入的性格を有するものであり、自然界や日常生活にみられる諸事象を取り上げ、人類の歴史との関わりを考察し理解することをねらいとしています。

『高校世界史』では、家族の歴史を取り上げています(▶p.50)。「家族」のあり方は、それぞれの時代を背景に変化してきました。導入として取り上げるのは、「親子の関係」です。私たちが当たり前のことと考えている親子関係も、決して普遍的なものではないことを理解してほしいと思います。そして、現在大きく変わろうとしている家族の問題として、「性別役割分担」を考えてみます。「男性は外で仕事、女性は家庭を守る」という役割分担は、産業革命が進む欧米社会で生まれ、日本では明治以降に広がり、高度経済成長期には、あるべき家族像とされました。

しかし、1960年代末からの学生運動、70年代のフェミニズム運動を機に男女の平等が主張され、「性別役割分担」を前提とする家族のあり方に転機が訪れました。では、家族における男女の平等と「性的役割分担」はどのように変化したのでしょうか。資料③ジェンダー=ギャップ指数・④イギリスの俳優エマ=ワトソンの国連でのスピーチ・⑤6歳未満の子どもをもつ夫婦の1日あたり家事・育児関連時間の国際比較・⑥育児休業取得率の推移・⑦研究者に占める女性割合の国際比較などを活用し、現在の状況を考察してほしいと思います。

目次と配当時間例

章立ては『詳説世界史』に準拠！

世界史Bと世界史探究の構成対照表は (→p.6-7) に掲載しています。



巻頭付録として、世界史の大きな流れの把握ができるよう、同時代の地図でそれぞれの時代の特徴を示しています。 (→p.50)

各部冒頭の「アプローチ」で、各部の学習の目的を明確化しています。 (→p.46-47)

<p>世界の自然 (表見返し) 世界史を学ぶみなさんへ</p> <p>目次</p> <p>2 世紀の世界 4</p> <p>8 世紀の世界 6</p> <p>13 世紀の世界 8</p> <p>16 世紀の世界 10</p> <p>19 世紀の世界 12</p> <p>世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史 自然環境と人類の進化 14</p> <p>世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史 料理からみる世界のつながり 18</p> <p>ミュージアムの歴史 20</p> <p>家族の歴史 22</p>		<p>第II部 諸地域の交流・再編 91</p> <p>第II部へのアプローチ 92</p> <p>第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 94</p> <p>1 イスラーム教の諸地域への伝播 94</p> <p>2 西アジアの動向 97</p> <p>7月/6日</p> <p>第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 101</p> <p>1 西ヨーロッパの封建社会 101</p> <p>2 東ヨーロッパ世界 104</p> <p>3 西ヨーロッパ世界の変容 107</p> <p>4 中世文化 112</p> <p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 114</p> <p>1 宋とアジア諸地域の自立化 114</p> <p>2 モンゴルの大帝国 119</p>		<p>第IV部 地球世界の課題 249</p> <p>2月/9日</p> <p>第18章 冷戦と第三世界の台頭 250</p> <p>1 冷戦の展開 250</p> <p>2 第三世界の台頭とキューバ危機 254</p> <p>3 冷戦体制の動揺 257</p> <p>第19章 冷戦の終結と今日の世界 262</p> <p>1 産業構造の変容 262</p> <p>2 冷戦の終結 265</p> <p>3 今日の世界 270</p> <p>4 現代文明の諸相 277</p> <p>地球世界の課題の探究 279</p> <p>世界史年表 280</p> <p>索引 288</p> <p>3月/9日</p> <p>現代の世界 (表見返し)</p> <p>探究しよう</p> <p>●ハムラビ法典は何を定めたのだろうか 31</p> <p>●殷墟はどのような墓なのだろうか 38</p> <p>●唐の女性はどのような生活をしていただろうか 54</p> <p>●ヒンドゥー教が人々に信仰された理由を考えよう 59</p> <p>●アレクサンドロス大王はどのような人物だったのだろうか 68</p> <p>●ローマの人々は「コンスタンティヌス帝の凱旋門」を通して何を感したのだろうか 74</p> <p>●カルル大帝が象を手に入れたのはなぜだろうか 87</p> <p>●イスラーム文化の多様性をモスクから考えてみよう 97</p> <p>●西ヨーロッパ各国で、国王の権威はどのように変化したのだろうか 108</p> <p>●宋代の開封はどのような都だったのだろうか 117</p> <p>●中国製品は、なぜ世界で人気だったのだろうか 126</p> <p>●アステカ王国をスペイン人が征服できた原因は何だったのだろうか 131</p> <p>●オスマン帝国はなぜ繁栄を謳歌できたのだろうか 134</p> <p>●清はどのように多くの異民族を統治したのだろうか 138</p> <p>●17世紀のヨーロッパは、どのような時代を迎えていたのだろうか 149</p> <p>●科学革命は、ヨーロッパの人々にどのような影響を与えたのだろうか 157</p> <p>●産業革命は、人々の暮らしをどのようにかえたのだろうか 164</p> <p>●自由貿易には、どのような期待が込められていたのだろうか 176</p> <p>●ヨーロッパ諸国・アメリカ合衆国の工業化はどのように進んだのだろうか 186</p> <p>●19世紀前半、オスマン帝国はどのような改革をおこなったのだろうか 192</p> <p>●太平天国とはどのような勢力だったのだろうか 199</p> <p>●19世紀末、社会主義にどのような変化が生じたのだろうか 204</p> <p>●「中国」という国名にはどのような意味があるのだろうか 210</p> <p>●魯迅はどのような覚悟をもって「狂人日記」を書いたのだろうか 226</p> <p>●ニュルンベルク国際軍事裁判では何が裁かれたのだろうか 245</p> <p>●西側諸国はどのようにして経済の復興と成長を実現したのだろうか 252</p> <p>●ベトナム戦争は、日本と大韓民国にどのような影響をおよぼしたのだろうか 260</p> <p>●中東の情勢に、アメリカはどのように関わっていたのだろうか 269</p>	
<p>第I部 諸地域の歴史的特質の形成 25</p> <p>第I部へのアプローチ 26</p> <p>第1章 文明の成立と古代文明的特質 28</p> <p>1 文明の誕生 28</p> <p>2 古代オリエント文明とその周辺 30</p> <p>3 南アジアの古代文明 35</p> <p>4 中国の古代文明 37</p> <p>5 南北アメリカ文明 40</p> <p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 42</p> <p>1 中央ユーラシア 42</p> <p>2 秦・漢帝国 44</p> <p>3 北方民族の活動と中国の分裂 47</p> <p>4 東アジア文化圏の形成 50</p> <p>5月/9日</p> <p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 55</p> <p>1 仏教の成立と南アジアの統一国家 55</p> <p>2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 58</p> <p>3 東南アジア世界の形成と展開 60</p>		<p>第III部 諸地域の結合・変容 159</p> <p>第III部へのアプローチ 160</p> <p>第12章 産業革命と環大西洋革命 162</p> <p>1 産業革命 162</p> <p>2 アメリカ合衆国の独立と発展 165</p> <p>3 フランス革命とナポレオンの支配 168</p> <p>4 中南米諸国の独立 172</p> <p>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 174</p> <p>1 ウィーン体制と政治・社会の変動 174</p> <p>2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 178</p> <p>3 アメリカ合衆国の発展 183</p> <p>4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 187</p> <p>10月/11日</p> <p>第14章 アジア諸地域の動揺 190</p> <p>1 西アジア地域の変容 190</p> <p>2 南アジア・東南アジアの植民地化 193</p> <p>3 東アジアの激動 196</p> <p>11月/12日</p>		<p>第15章 帝国主義とアジアの民族運動 201</p> <p>1 第2次産業革命と帝国主義 201</p> <p>2 世界再分割と列強の対立 206</p> <p>3 アジア諸国の変革と民族運動 209</p> <p>第16章 第一次世界大戦と社会の変容 216</p> <p>1 第一次世界大戦とロシア革命 216</p> <p>2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 220</p> <p>3 アジア・アフリカ地域の民族運動 226</p> <p>第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 232</p> <p>1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 232</p> <p>2 第二次世界大戦 237</p> <p>3 新しい国際秩序の形成 242</p> <p>12月/7日</p> <p>1月/8日</p>	

各章に、資料読み解きのスキルや考察力が身につく「探究しよう」を掲載しました。 (→p.48-49)

探究活動をより深めるために、二次元コードから、本文に掲載した図版の全体図や部分拡大、追加の図版・文字資料などを参照できるようにしました。

「探究」の構造を理解できる問いを中心とした展開



第1部へのアプローチ

古代の諸地域において活動した人々の特色をあげてみよう

資料は紀元前2600年頃のシュメールの古代都市ウル(現在のイラクにある)の遺跡から出土した横長の箱である。「スタンダード(Standard、旗章、軍旗)」と呼ばれているが、その実際の用途は明らかになっていない。スタンダードには、様々な人物のモザイクがほどこされている。ここに描かれた人々の特色から、古代の社会や暮らしについて考えてみよう。

戦争の場面

右の場面は下段から中段、上段へと時間の流れを追っていくように構成されている。下段は四頭立ての四輪戦車が描かれている。戦車を牽いている動物は馬ではなく、半ロバ(オナガー)である可能性が高い。左端の半ロバは並足だが、右へ行くほど前足が上がっていることから、1台の戦車がほしいに速度を増していく様子とも考えられている。中段には兵士たちが描かれている。左側の兵士は胃をかぶりマントを身につけているが、右側の兵士たちの身なりはどうであろうか。中段はどのような場面を描いているのだろうか。上段の大きく描かれた人物が中央で、右側からやってくる人物達を待ち受けている。



図12 「戦争の場面」

平和の場面

右の場面は「戦争の場面」と結びつけて戦争に勝利したあとの「祝宴の場面」と考えられてきたが、現在では宗教的な意味をもった場面とされ、「平和の場面」や「饗宴の場面」といわれる。下段では、穀物を入れた袋などが運ばれている。中段には牛やヤギ、羊のほかには魚なども描かれている。右端の2名の人物は、胸の前で手を組み恭順の仕草を示し行列を導いている。なぜ、このような産物が運ばれているのだろうか。上段には、ひときわ大きく描かれ立派な腰巻きを身につけている人物と向かい合って座る6人の男性が杯を手に入れている。



図13 「平和の場面」

26 ■ 1 ■ 諸地域の歴史的特質の形成



図11 ウルのスタンダード
発見者であるイギリスの考古学者「オード・ウェーラー」の画にしたがって「スタンダード」と呼ばれている。

Q1 人々はどうな仕事に従事し、どのような生活を送っていたのだろうか。たとえば、図b・図fの人々はどうな生活を営んでいるのか考えよう。ほかにも興味のある人物をあげてみよう。



図b

図f

Q2 どのような身分の人がいるだろうか。たとえば、図d・図gの人々はどうな身分だと考えられるだろうか。2人とは異なる身分だと思う人物もあげてみよう。



図d

図g

第1章 文明の成立と古代文明の特質

世界各地で、自然環境にもとじて多様な古代文明が成立し、そのもとでは王などの権力者を中心とする社会や文化も形成された。古代文明において、王は人々にとってどのような存在であったのだろうか。

1 文明の誕生

各地で始まった農耕と牧畜は、人々の暮らしをどのようにかえたのだろうか。

農耕と牧畜のはじまり

約1万年前に氷期が終わると地球は温暖化し、自然環境が大きく変化したため、新人は地域ごとの多様な環境に適応していった。そのなかでもっとも重要だったできごとは、約9000年前の西アジアで、麦の栽培とヤギ・羊・牛などの飼育が始まったことである。これが農耕・牧畜の開始である。これにより人類は積極的に自然環境を改変する能力を身につけ、食料を生産する生活を営みはじめた。人類史は、採集を中心とした獲得経済から、農耕・牧畜による生産経済に移るといふ重大な変革をとげたのである。その結果、人口は飛躍的に増え、文明成立の基礎が築かれた。

農耕・牧畜が始まると、人類は集落に住み、織物や土器をつくり、また石斧・石臼などの磨製石器を用いた。新石器時代の始まりである。このような初期農耕民の新石器文化は、アジア・ヨーロッパ



図14 磨製石器
礫石を使って表面を磨いた石器。研磨の技術は新石器時代の農耕開始とともに発達し、石斧・石臼などが製作・使用された。

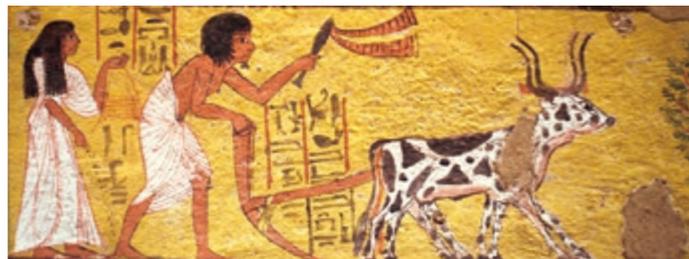


図15 農耕をおこなう男女
牡牛に犁を牽かせて土地を耕す男性と、その後についで種をまく女性。前1200年頃のエジプトの壁画。

28 ■ 1 ■ 文明の成立と古代文明の特質

生徒自身で問いを表現する「アプローチ」

第I部～第III部の冒頭に、各部の学習の目的を明確化する「第○部へのアプローチ」を設けました。

各部を貫く視点の一例として、第I部では王権や身分・階級、第II部では都市の発達や交易の拡大、第III部では交通の発達や人々の国際的な移動について取り上げました。

著者messageもご覧ください。▶p.40

問いを主体とした展開 1

章の冒頭に、章全体の学習内容をまとめた概観と、それを理解するためのヒントとして「問い」を設けています。



図16 彩文土器
表面に彩色文様をつけた土器を彩文土器という。貯蔵やビール・ワインなどの酒器として用いられたが、模様は左のような幾何学文から徐々に右のように動物も描かれるようになっていった。

Q なぜ幾何学文だけでなく、動物も描かれるようになったのだろうか。考えてみよう。

パ・アフリカの各大陸に広がった。

文明の成立

初期の農耕は雨水だけに頼り、また肥料を用いない方法によっていたため、収穫が少なく、耕地もかえていかなくてはならなかった。しかし、メソポタミア(ほぼ現在のイラクにあたる)をはじめとする地域で灌漑農業が始まると食料の生産力は高まり、余裕が生まれるにつれて貧富の差の拡大や仕事の分業化が進んだ。こうして権力者が多くの人々を統一的に支配する国家という仕組みが生まれた。ナイル川、ティグリス川・ユーフラテス川、インダス川、黄河・長江の各流域には高度な文明が誕生し、やや遅れてアメリカ大陸にも独自の文明が形成された。

こうした文明においては、宗教や交易の中心である都市が生まれた。武器や工具などの金属器がつけられ、また多くの文明では政治や商業の記録を残すための文字が発明された。ここから人類史は、歴史時代に入っていた。

Q 堤防や水路で川の流れをコントロールし(治水)、農作物をつくるために水を引いて土地を潤して耕作する農業のこと。

Q 16世紀頃に始まる「世界の一体化」(1492年)以前にも、世界各地では言語や宗教を共通の基盤として、独自の特色をもつ文化的なまとまりが形成されていた。本書では、こうしたまとまりを「東アジア世界」「地中海世界」などの表現を用いて示している。

1 文明の誕生は人々の関係をどのようにかえたのだろうか。



図17 おもな古代文明とその遺跡

1 文明の誕生 29

問いを主体とした展開 2

節冒頭に「問い」を設け、その節の学習目的を明確化しています。

図版に番号を付け、関連する本文にも番号を付けました。

問いを主体とした展開 3

本文の理解を深めるために、図版などの資料にも「問い」を付けています。

問いを主体とした展開 4

節末の「問い」は、その節のまとめや、さらに生徒に考えさせる発展的な内容にしています。〈そのほかの問いの例〉

3 あなたは、人々を支配するもつとすくれたローマ帝国の仕組みは何であったと思うか。

4 隋・唐の繁栄は、どのような人々によって支えられていたのだろうか。あなたがもっとも重要だと考える人々の働きについて、説明してみよう。

「探究」の構造を理解できる部ごとの展開

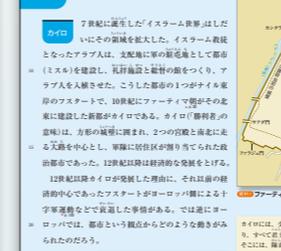


第II部 諸地域の交流・再編

各部の扉は、その部の概観と学習の視点を示し、「部へのアプローチ」と関連させた年表や図版を取り上げています。

第II部は 諸地域の交流・都市の発達について取り上げています。

10～12世紀の各地の都市を比較してみよう



この部では、多岐にわたる諸地域の交流や都市の発展について、その背景や特徴を考察する。

第I部 諸地域の歴史的的特質の形成

第I部では、オリエント文明などの古代文明の誕生から東アジアと中央ユーラシアをはじめとする諸地域ごとの歴史の様相や展開について取り扱う。

- 前7000年 農耕・牧畜の開始
- 前6000年 黄河・長江流域で農耕開始
- 前3000年 エジプトに統一国家成立
- 前2700年 メソポタミアに都市国家成立
- 前2600年 インダス文明の成立
- 前1000年 マヤ文明の成立
- 前8世紀 ギリシアでポリス成立
- 前317年 マウリヤ朝成立
- 前334 アレクサンドロス大王の東方遠征開始
- 前221年 秦の中国統一
- 前202年 漢(前漢)建国
- 前27年 アウグストゥス、元首政(帝政)開始
- 395年 ロマ帝国の東西分裂
- 618年 唐建国
- 622年 ムハンマドのジブラ
- 750年 アッバース朝成立
- 800年 カール大帝戴冠
- 962年 神聖ローマ帝国成立

第I部は 身分・王権について取り上げています。

第III部では、産業革命と大東洋航路から、第二次世界大戦後の新しい国際秩序の形成に至る。諸地域の結合・変容を取り扱う。

- 18世紀後半 イギリスで産業革命始まる
- 1776年 アメリカ独立宣言
- 1789年 フランス革命
- 1840年 アヘン戦争
- 1851年 ロンドン万国博覧会
- 1853年 クリミア戦争
- 1861年 南北戦争
- 1911年 辛亥革命
- 1914年 第一次世界大戦
- 1917年 ロシア革命
- 1919年 三・一独立運動、五・一運動
- 1920年 国際連盟成立
- 1922年 ソ連成立
- 1929年 世界恐慌
- 1939年 第二次世界大戦
- 1945年 国際連合成立
- 1948年 第1次中東戦争
- 1949年 中華人民共和国内閣成立
- 1950年 朝鮮戦争

第III部は 交通・移動について取り上げています。

19世紀の国際的な人々の移動について考えてみよう

19世紀には、産業革命と大東洋航路の発達により、国際的な人々の移動が盛んになった。この時代の国際的な人々の移動は、どのような特徴をもち、どのような影響を及ぼしたのだろうか。

国	人口(1850年)	人口(1900年)	人口(1950年)
イギリス	1,800万	2,800万	4,800万
フランス	3,500万	3,800万	4,200万
ドイツ	4,000万	5,500万	6,500万
ロシア	1,200万	1,800万	2,500万
中国	4,000万	4,500万	5,000万
インド	1,000万	1,200万	1,500万

第IV部は 地球世界の課題の探究

地球世界の課題の探究

「世界史探究」のまとめとして、世界が直面する諸問題に、わたしたちがどのように取り組んでいくべきかを考えてみよう。

1. 問題(課題)を特定する
2. 予想・仮説を立てる
3. 資料の収集・分析をし、考察する
4. 予想・仮説を再検証して、それらの過程をまとめる
5. その結果を発表し、討議する
6. ほかの人の意見をふまへ、探究活動を振り返る

第IV部は 紛争について取り上げています。

教科書p.279は、これまで学習してきた第I部から第IV部をふまえて、「地球世界の課題」についてみずから探究するページです。

資料読み解きのスキルが身につく「探究しよう」

- 「探究しよう」は本文の記述をさらに深め、生徒の想像力や考察力を養うテーマを取り上げました。
- 各章に1～2つの「探究しよう」を掲載し、文字資料・図版・地図・グラフなど、多角的な資料を取り上げています。資料を読み解く問いから、生徒自身が考察する発展的な問いまで、様々な問いを設定しています。
- 発展的な問いについては、グループで意見交換し、興味・関心を高めることができるよう工夫しました。
- 準拠ノートでは、「探究しよう」のページはワーク形式にしています。→p.64

宋代の開封はどのような都だったのだろうか

開封は黄河と大運河の合流地点に位置する都市であり、華北の交易の要衝として栄えた。

私は国子監で学ぶ者である。今日は私の暮らす開封の街を皆さんに紹介したい。

開封の街は三重の城壁からできており、4本の運河が流れている。正店とは庭園をもつ高級酒樓のことで、開封にはそのような店が数多くある。瓦市とは盛り場のことである。

国子監からまっすぐ北上すると電津橋にでる。電津橋から州橋にかけては、夏には胡麻豆腐、砂糖をまぶしたかき氷、ボケの実エキスのジュース、緑豆の砂糖漬け、甘草で甘味をつけた氷水などが売られている。これらの店は午前零時頃まで商売をしている。

朱雀門は、宋の第2代太宗の太平興国4(979)年、改名された。この年、皇帝は北漢を併合し天下統一を果たしたが、遂に敗れ燕雲十六州の奪還に失敗した年である。

州橋とその東の相国寺橋は、大型船が通過できない平橋であったため、汴河をさかのぼってきた物資は相国寺橋より東側で荷下ろしされた。朱雀門を入ると大相国寺がみえる。大相国寺は開封最大の仏教寺院であり、皇帝の行幸も頻繁におこなわれた。

相国寺の境内では、毎月5日回民衆の市場が開かれる。変わった動物や日用品など、様々なものが売られている。さらに地方から帰任した官僚が持参した各地の産物も

出品されている。その裏側には古い師や不思議な術を見せる者もいて、賑わっている。

州橋を渡った御街の幅は約300mにおよぶもので、様々な儀礼がおこなわれた。まっすぐ進むと宮城の宣徳門に至る。東華門の街路は東華門街と呼ばれ、開封で1、2を争うにぎわいである。東華門は、官僚が退勤する通用門であり、宮中への物資に開閉せずシアの宗教

宣徳門には潘楼酒羊の頭や馬市がすんで居小屋が5もあり、葉たいなどの馬行街を

院や薬屋の百倍はに

とができた良い街で

文字資料と地図を組み合わせた読み解きができるように工夫しました。

宋代の開封はどのような都だったのだろうか

開封は黄河と大運河の合流地点に位置する都市であり、華北の交易の要衝として栄えた。



開封は黄河と大運河の合流地点に位置する都市であり、華北の交易の要衝として栄えた。

私は国子監で学ぶ者である。今日は私の暮らす開封の街を皆さんに紹介したい。

開封の街は三重の城壁からできており、4本の運河が流れている。正店とは庭園をもつ高級酒樓のことで、開封にはそのような店が数多くある。瓦市とは盛り場のことである。

国子監からまっすぐ北上すると電津橋にでる。電津橋から州橋にかけては、夏には胡麻豆腐、砂糖をまぶしたかき氷、ボケの実エキスのジュース、緑豆の砂糖漬け、甘草で甘味をつけた氷水などが売られている。これらの店は午前零時頃まで商売をしている。

朱雀門は、宋の第2代太宗の太平興国4(979)年、改名された。この年、皇帝は北漢を併合し天下統一を果たしたが、遂に敗れ燕雲十六州の奪還に失敗した年である。

州橋とその東の相国寺橋は、大型船が通過できない平橋であったため、汴河をさかのぼってきた物資は相国寺橋より東側で荷下ろしされた。朱雀門を入ると大相国寺がみえる。大相国寺は開封最大の仏教寺院であり、皇帝の行幸も頻繁におこなわれた。

相国寺の境内では、毎月5日回民衆の市場が開かれる。変わった動物や日用品など、様々なものが売られている。さらに地方から帰任した官僚が持参した各地の産物も

出品されている。その裏側には古い師や不思議な術を見せる者もいて、賑わっている。

州橋を渡った御街の幅は約300mにおよぶもので、様々な儀礼がおこなわれた。まっすぐ進むと宮城の宣徳門に至る。東華門の街路は東華門街と呼ばれ、開封で1、2を争うにぎわいである。東華門は、官僚が退勤する通用門であり、宮中への物資に開閉せずシアの宗教

宣徳門には潘楼酒羊の頭や馬市がすんで居小屋が5もあり、葉たいなどの馬行街を

院や薬屋の百倍はにとができた良い街で

Q1 文中の太字を地図上でたどって、その区域・施設の特徴を確認しよう。

Q2 文中の下線部の語句を、辞典やインターネットを利用して調べてみよう。

Q3 文中の波線部について、以下のことをインターネットや文献を使って調べてみよう。国子監：どのような施設だろうか。燕雲十六州：この土地の重要性は何だろうか。官僚：宋代の官僚の社会的地位とはどのようなものだろうか。金銀交易所：宋代はどのような通貨が利用されていたのだろうか。

Q4 「清明上河図」などを参照して、開封の街の想像図を描いてみよう。その際、説明文に、句いや音なども想像して記入してみよう。

Q5 「東京夢華録」を読み、当時の人々の生活をより深く探究してみよう。

準拠ノートではワークシート形式にしています。

生徒の探究心を高めるよう、嗅覚や聴覚についての問いを設けました。著者messageもご覧ください。

→p.40

ニュルンベルク国際軍事裁判では何が裁かれたのだろうか

第二次世界大戦後、連合国は戦争犯罪を処罰することを基本方針とした。この時、それまで想定されていなかった侵略戦争の計画・開始も処罰の対象となった。そして、戦争に敗北した国の指導者層がはじめて国際法と国際軍事法廷で裁かれるようになった。しかし、この裁判については、処罰の根拠や公平性に欠け、**①報復的な「勝者の裁き」**であるという批判もある。また、**②戦後のドイツ連邦共和国基本法は「ある行為は、その行為がなされる前に、処罰することが法律で定められている場合のみ、これを処罰することができる」としていることも、そうした批判の根拠となっている。**

第6条 ……次の諸行為、またはそれらのうちひとつは裁判所の管轄に属する犯罪行為であり、それに対しては個人責任が発生する。

①平和に対する罪。すなわち、侵略戦争、または国際条約、協定もしくは約定に違反する戦争の計画、準備、開始、もしくは遂行、またはこれらのいかなるもの遂行のための共通の計画もしくは共同謀議への参加、

②戦争犯罪。すなわち、戦争の法規または慣例の違反。この違反には、占領地に所属する、もしくは占領地内にいる民間人の殺害、虐待、または奴隷労働もしくはその他の目的のための強制連行、戦争捕虜もしくは海上における人民の殺害もしくは虐待、人質の殺害、公私の財産の掠奪、都市町村の恣意的破壊、または軍事的必要によって正当化されない荒廃化が含まれるが、これに限定されない、

③人道に対する罪。すなわち、犯行地の国内法に違反すると否を問わず、本裁判所の管轄に属する罪の遂行として、あるいはそれに関連して、戦前もしくは戦時中に行われた、すべての民間人に対する殺人、絶滅、奴隷化、強制連行及びその他の非人道的行為、または政治的、人種的、ないし宗教的理由に基づく迫害行為。

上記犯罪のいずれかを犯そうとする共通の計画もしくは共同謀議の形成もしくは実行に参加する指導者、組織者、教唆者、遂行者はこの計画の遂行のためいずれのものによってなされた行為についても責任を負う。

(歴史学研究会編「世界史資料11」一部改変)

資料1 国際軍事裁判所憲章(1945年8月8日)

Q1 ニュルンベルク国際軍事裁判では、資料1の下線部**①**、**②**、**③**の内容を簡単に整理してみよう。

Q2 資料1に示される3つの罪のうち、従来の国際法に規定されていたのは**①**だけであり、**②**、**③**は、それまでの国際法には存在しない概念であった。連合国は、なぜ従来の国際法に規定されていなかった2つの罪を裁くことを求めたのだろうか。下線部**①**を参考に考えてみよう。

Q3 従来の国際法に存在しなかった概念で戦争犯罪を裁くことに対し、ドイツ側は強く反発した。ドイツ側はなぜ反発したのだろうか。下線部**②**を参考に考えてみよう。



資料2 裁判所でのドイツの被告たち
前列奥がゲーリング、3人目がリッペンロップ、後列奥がデーニッツ。



資料3 1945年9月2日、戦艦「ミズーリー号」でアメリカ代表として降伏調印に署名をするニミッツ

文字資料を取り上げ、その背景についてリード文や問いで補足説明もしています。さらに、**生徒自身に考えさせる「問い」**を多く設定しました。

Q4 この裁判で、ゲーリング元航空相、リッペンロップ元外相など12名が死刑判決を受けた。一方、ヒトラーの自殺後に大統領となり、連合国に降伏した海軍元帥デーニッツは、死刑の求刑に対して懲役10年の判決であった。彼の罪状は、彼が戦争中に潜水艦隊に対して出した指令が、沈没船の乗員・乗客の殺害命令にあたるというものであった。しかし、彼の弁護人はアメリカ海軍の太平洋艦隊司令長官ニミッツ提督の証言を得ることで、彼の罪を軽減させることに成功したのである。デー

ヨーロッパ諸国・アメリカ合衆国の工業化はどのように進んだのだろうか

19世紀半ばから、ヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国では工業化が進展し、1870年代には、先行するイギリスに諸分野で追いつこうとしていた。

① 原簿消費量(単位:1,000トン)					② 鉄生産量(単位:1,000トン)				
	1840年	1850年	1869年	1890年		1840年	1850年	1869年	1890年
ドイツ	-	-	64	227	ドイツ	190	210	1313	4100
フランス	53	59	94	125	フランス	348	406	1381	1962
イギリス	208	267	426	755	イギリス	1419	2285	5533	8031
ベルギー	9.1	10	16	32	ベルギー	95	145	534	788
アメリカ	-	-	187	548	アメリカ	291	572	1739	9350

③ 登録商船トン数(単位:千トン)					④ 鉄道営業距離数(単位:キロメートル)				
	1840年	1850年	1869年	1890年		1840年	1850年	1869年	1890年
ドイツ	-	496	890	67	ドイツ	469	5856	17215	42869
フランス	653	10	674	14	フランス	410	2915	16465	33280
イギリス	2680	88	3397	168	イギリス	2390	9797	-	27827
ベルギー	22	1	33	2	ベルギー	334	854	2816	4526
アメリカ	1978	202	3010	526	アメリカ	4535	14518	75388	268282

資料1 欧米諸国の工業化の進展(B.R.ミッチェル編「マクマラン世界歴史統計1-II」より作成)

- Q1 1840年に注目すると、各国の工業生産と輸送力について、どのようなことが読み取れるだろうか。
- Q2 アメリカの工業生産と輸送力がヨーロッパ諸国と比べて、急激な発展をみせるのはどの時期だろうか。また、その要因は何だろうか。
- Q3 1869年から1890年のあいだに、アメリカと並んで工業生産と輸送力で急激な成長を遂げている国はどこだろうか。また、その要因は何だろうか。

グループでの意見交換にも最適な問い。

表やグラフ資料も多数用意し、数値からも考察できるよう工夫しました。

教師用指導書 授業実践編

世探705準拠

B5判・320頁・2色刷・付属データ集DVD-ROM付 定価22,000円

本教科書の特色である豊富な資料について、すべての図版と問いの解答例を掲載しています。單元ごとの「指導上の留意点」や補足資料の解説など、授業準備を全面サポートする充実の内容です。

指導上の留意点

授業展開の柱となる、単元の重要ポイントを箇条書きで挙げています。

「問い」の解答例

教科書本文中の節・節末の問いの解答例を赤字の囲みで示しています。そのほか、図版につく問いの解答例も赤字で示しています。

解説

教科書本文中の地図・図版・重要用語について解説しています。

図版につく問いの解答例も赤字で入れています。

第1章 文明の成立と古代文明の特質

2 古代オリエント文明とその周辺①

指導上の留意点

- ① ②から、大河の流域で王権が発達した要因を理解させる。
- ② ③④から、シュメールの王権と宗教との関係を分析させる。
- ③ 探究しようから、バビロン第1王朝の王権がもっとも重視した責務を判断させる。
- ④ メソポタミアの文化的特色と私たちへの影響を理解させる。

2節A▶ジググラトやピラミッドなどで宗教的権威を高め、神権政治をおこなった。また、治水や灌漑を整えて人々の生活を豊かにしたり、ハンムラビ法典などを定め、社会正義・公平の実現をめざしたりした。エーゲ文明も物産の分配で人々の支持を得た。一方で、専制君主として強制的に人々を支配し、強制移住などで人々を苦しめる場合もあった。

① 図版 1 シュメール人の高官像

シリアの都市国家マリイの代官エビフ・イルが祈りを捧げる祈願者像で前2400年頃の作品。王をはじめ人々は神殿で礼拝ばかりでできないため、代わりに神に祈願する石像を作り、名前や祈願の碑文を刻んで神殿に納めた。授業では、この人物が、頭を剃髪し長い髭を誇らしげに見せていることや、かご製の腰掛に座り、上半身は裸で、羊か山羊の皮または動物のふさふさした毛に似せた織物でできた長い房のある長いスカート、カウナクスをはいていることなどを説明する。像の後ろに「エビフ=イルの像、代官、男性のイシュタル(戦士の女神)、彼が捧げた」と刻まれていることを紹介し、何を祈願したか(戦勝の祈願など)を考察させることもできる。さらに、象眼細工がほどこされたアフガニスタン産のラピスラズリの眼に注目させ、古来の近東における長距離間の交易関係について言及することができる。(ルーヴル美術館HP参照)

② 地図 2 古代オリエント世界と東地中海世界

この地図では、大河の名称、エジプト・アナトリア・シリア・パレスチナ・メソポタミア・イラン、エーゲ海といった基本的な地域の名称などを確認することに加え、オリエント全般の特色である砂漠や岩山の地域が大半を占めていることを把握させ、その中で農耕が可能な大河流域や沿岸部の平野に古代文明が生まれたことを理解させたい。メソポタミアは「河の間の土地」を意味するギリシア語であり、ティグリス・ユーフラテス川による粘土の堆積でできた平野であり、頻繁にしかも突然に洪水に襲われたため、様々な洪水伝説が残る。特に、山岳地帯に近いティグリスは春先の雪解け水の影響などもあり暴れ川であったため、都市の多くが、ユーフラテス川流域に建設された。

▶ティグリス・ユーフラテス川流域の平野。両大河に挟まれ、洪水に襲われた。

探究しよう

ハンムラビ法典は、高さ2mを超す黒色玄武岩の碑に楔形文字で示されている。1901年にフランス調査隊によりササで発掘されたが、元々はバビロンに建てられ、エラム人が戦利品として持ち去ったと考えられている。現在、ルーヴル美術館に所蔵されている。資料2の図版左は、碑の最上部にある浮き彫りで、右の玉座に座っている、正義と裁判の神でもある太陽神シャマシュから、崇拝のポーズをとりながら法典を授けようとしているハンムラビ王が刻まれている。図版右が楔形文字の法文であり、前3300~前3100年頃にシュメール人によって考案された象形文字である。このシュメール語の表記に使用された文字体系はアッカド語・アッシリア語・ヒッタイト語などの異なる言語を書き写す手段に用いられ、3000年以上にわたってオリエント全域で使用された。文字は筆の茎を切ったものや細い棒の角を粘土板に押しつけて書かれたため、シュメール語では書くことを「植える」と表現した。書記や神官によって法規や祭祀の記録として記述されたが、その後商業文書としても普及した。解説は19世紀に入ってから、ドイツのグローテフェントが道筋をつけ、イギリスのローリンソンによるペヒストゥーン碑文の研究で達成された。

授業では、ハンムラビ法典からメソポタミアの王権や社会の特色を探究させたい。法典は196・199などの刑法だけでなく、土地や商業、家族など民法に関する事

2 古代オリエント文明とその周辺

古代オリエント文明やエーゲ文明の王は、どのように人々を支配したのだろうか。

オリエント世界と東地中海沿岸の風土と人々

オリエントとはヨーロッパからみた「日のほるところ、東方」を意味し、西アジアからエジプトにかけての地域を指す。乾燥して気温が高いために、砂漠・草原・岩山が多い。羊やラクダを飼育する遊牧生活に加えて、沿海や川流域の平野、あるいはオアシスで、小麦・大麦・豆類・オリヴ・ナツメヤシなどを栽培する農業が営まれてきた。とくにティグリス川・ユーフラテス川流域のメソポタミアやナイル川流域のエジプトなど大河の流域では、定期的な増水を利用して早くから灌漑農業がおこなわれ、王が神やその代理人として大きな権力をもつ神権政治がおこなわれた。

オリエントの西に広がる地中海沿岸部は、重要な交通路として古くから1つの文化的まとまりを形成し、そこには様々な文明が発達した。地中海一帯は冬に少量の雨がふるものの、夏は乾燥し、陸地はやせた石灰岩の丘が連なっている。そのため、オリヴなどの果樹栽培や羊の牧畜がおもな生業であった。



「探究しよう」の解説

「探究しよう」で取り上げている資料や、その意図、問いの解答例について解説しています。

例も多い。それは、王の責務が神の規範の維持や都市の防衛・豊饒だけでなく、人間社会における「正義」を明示しそれを遵守させること、すなわち、社会正義の実現が重視されるようになったためである。社会正義の実現は「法典」の編纂を通して具体化された。Q1では、メソポタミアにおいて農耕・牧畜だけでなく民間による商業活動が活発化していることに気が付かせたい。法典はこのような社会変化に対応した側面もある。「235 船を建造したらその同じ年に、建造した船が破損したら補修義務を負う。」などの法文を紹介すると工業・技術者についても言及できる。Q2では、農耕・牧畜をめぐる人々の利害対立が起こっていることに気が付かせたい。「48 負債があり、しかも畑は氾濫や水枯れなどで収穫がない場合、負債の主に穀物を返さず、契約更新してその年は利息も課さない。」など

- ① ▶農民、商人、居酒屋の女主人、奴隷、牧畜、牧畜民
- ② ▶堤防の管理、牛や羊の飼育をめぐる問題
- ③ ▶刑罰には復讐法・身分法の原則。王は利害の調整・対立の抑制、身分秩序の維持を通して社会正義の実現を目指した。
- ④ ▶196・199は受け入れられないだろうが、他の法令は適用されてもおかしくないかもしれない。一方で、「目には目を」というような同害復讐法の原則はイスラーム法に受け継がれ、現代の中東では同様な判決がなされる場合もある。

③ 史料 徳政令

探究しようで説明した王権による社会正義の実現は、法典の編纂だけでなく、個人借財の取り消しや債務奴隷の解放、納税義務の免除などをおこなう徳政令によっても具体化された。次の資料はハンムラビ王の後継者サムス=イルナの勅令(前1742年頃)である。

第1条 イッシュアックム農夫、放牧地の牧夫と[家畜の解体人]、および[全ての]ビルトゥム義務を負う者が[滞納している全ての税の]未払い残額は、王が社会正義を確立した[勅令を]発布した[こと]により免除される。徴税官はビルトゥム義務を負う者の家産にたいしていかなる強制[徴税]も行使してはならない。(歴史学研究会編「世界史資料1」岩波書店より)

授業では、探究しようの学習に結びつけることで、社会正義を実現しようとする王権の動きをより具体的に認識させることができる。

④ 図版 3 ジググラト

メソポタミアの各都市には、中央部に煉瓦造りのジググラト(聖塔)がつけられた。ジググラトは、山形の階段状基壇の最上部に各都市の守護神を祀る神殿が置かれた。その機能は都市の神を祀る神殿が有力であるが、時に天体観測が実施されるなど、不明な点も多い。王はジググラトを建設し祭儀権を掌握することで、宗教的権威による統治を進めた。また、大規模なジググラトを建造することで、王の権力を示すことができた。代表的な遺構は、復元された本図のウルのジググラトで、ウル第3王朝初代ウルナム王の建造と推定されている(紀元前2100年頃)。現状では第2層より上層が残っていないが、第3層とその上に月の神ナンナルの神殿があり、高さは21m、62.5m×43mの長方形であったと考えられている。また、ヘロドトスの「歴史」に登場するバビロンのジググラトは8層の基壇をもつものであり、旧約聖書のバベルの塔の記述に関係していると考えられている。

▶王はジググラトを建設し祭儀権を掌握することで、宗教的権威による統治を進めた。また、大規模なジググラトを建造することで、王の権力を示すことができた。

⑤ 図版 ヒッタイト人の戦車

ヒッタイト人の戦車は、シュメール人などがメソポタミアで使用していた4輪の木製車輪を4頭立て(ロバが中心)で引く儀礼用の戦車と比べると、2輪の鉄製6本スポークの車輪を2頭立ての馬が引くという、軽くて機動性に優れた点に特色がある。この石像には御者と弓を射る兵士、戦車に蹂躞される敵の兵士がリアルに表現されている。(アナトリア文明博物館蔵)

メソポタミア南部では、前2700年頃までにウル・ウルクなどシュメール人の都市国家が数多く形成された。これらの都市国家では、王を中心に、神官・役人・戦士などが都市の神をまつり、政治や経済・軍事の実権を握って人々を支配する階級社会が成立した。

前24世紀頃、アッカド人がメソポタミア南部の都市国家をはじめて統一した。その統一国家が崩壊したあと、前19世紀初めにアムル人がバビロン第1王朝をおとし、ハンムラビ王のときに全メソポタミアを支配した。王は運河の大工事をおこなって治水・灌漑を進め、またハンムラビ法典を公布して、法にもとづく強力な政治をおこなった。

早くから鉄器を使用したヒッタイト人は、前17世紀半ば頃アナト

ハンムラビ法典は何を定めたのだろうか

ハンムラビ王は首都バビロンで神の代理として統治をおこない、それまでの法慣習を集めて法典を定めた。

- 53. 自分の耕地の畔の強化をおこなったため、畔に亀裂が生じ、灌漑水で耕地を流出させたなら、自分の耕地に亀裂を生じさせた人は、流出させた穀物を償わなければならない。
- 104. 商人が販売人に商品を販売するために与えたら、販売人は商人に定期的に銀を返さなければならない。販売人は、彼が商人に与える銀の借取書を受け取らなければならない。
- 108. 居酒屋の女主人がビールを対価として穀物を受け取り、銀を大きな分前まで計って受け取り、その結果穀物の販売価格に対するビールを販売価格を上げたら、彼女はその女主人の不法行為を立証しなければならない。
- 196. 他人の目をつぶしたならば、自分の目をつぶさなければならない。
- 199. 他人の奴隷の目をつぶしたり、他人の奴隷の背を折ったならば、奴隷の値段の半額を支払わなければならない。
- 264. 牛あるいは小畜舎の奴隷を盗まれた者が、全労賃を受け取って満足し、牛や小畜舎の数を減らしたり、その出産を少なくしたり、彼は契約にしたがって小畜舎の子供と産物を与えなければならない。

教科書本文には掲載していない補足の資料解説も適宜示しています。

第1章 文明の成立と古代文明の特質

2 古代オリエント文明とその周辺②

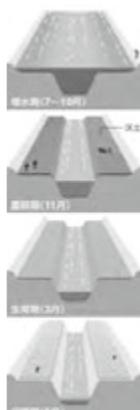
指導上の留意点

- 1 4から、ナイル川流域で王権が発達した要因を分析させる。
- 2 5から、王の政治的・宗教的権威だけでなく、霊魂不滅と死後の世界を信じるなど人々の来世的な観念を分析させる。
- 3 コラム「アメンホテプ4世」から、宗教改革の目的を判断し、エジプトの神権政治の特徴を説明する。
- 4 「フェニキア人の海洋交易」から東地中海の諸民族の活動を分析し、オリエント世界の交易・交流の活発化について理解する。
- 5 7から、新バビロニア王国の繁栄とバビロン捕囚を関連づけ、ユダヤ教が成立した歴史的背景を理解する。

図版 4 ナイルの水位と農耕 ナイル川では、エチオピア高原の雨季による青ナイルの増水が、下流域のエジプトに定期的洪水をもたらした。上流の沃土をため池のようにして畑に沈殿させ、水位が低下したときに農作業をおこなった。毎年くりかえされるこの治水と農作業により、肥料を使わなくても広大な面積の畑で安定的に農産物が確保できた。授業では、ティグリス・ユーフラテス川と異なり不規則的な洪水ではなく、予測可能な氾濫(増水)であったことに気が付けたい。その結果、指導者による計画的な灌漑農業が実施され、また、測地術や暦、天文学が発達したことを説明する。さらに、東アジアにおける洪水は8・9月の収穫期(稲)に重なることが多かったが、エジプトの収穫期は5月(麦)であり、洪水の被害を受けなかったことに注目させたい。

図版 5 ピラミッドと守護神のスフィンクス ピラミッドは、王のミイラを製作したとされる河岸神殿、ミイラを運ぶ屋根つきの参道、最後の儀式用の葬祭神殿、王妃の小ピラミッド、王侯・貴族の墳墓などで構成される計画的な「ピラミッド複合体」の一部である。ピラミッドはファラオの供養と祭儀、遺骸と副葬品を納めるために建てられた可能性が高いが、王のミイラが出土した例はない。太陽神信仰の象徴とする説も有力である。公共事業説は当時の農民の豊かさから否定されている。建設に従事したのは奴隷ではなく、専属の職人や労働者であり、パンやビール、肉など十分な食料の配給があった。ピラミッドに関わる様々な議論を生徒に紹介し、エジプト文明に興味関心を持たせたい。ギザの三大ピラミッドがピラミッド建築の頂点とされ、当初は化粧石で全面が滑らかに覆われ、太陽や月が壁面に映し出されたこととされる。王の頭巾をつけた大スフィンクスは、カフラー王の葬祭殿への参道の入り口に建てられた。石材を切り出した石灰岩の岩山を利用して建設された。全身は高さ約20m、全長約73mの巨大なものである。

図版 6 アメンヘテプ4世 王は太陽神ラーの実子とされ、即位と同時にこの世でのラーの役割を演じ、人々も王を神とみなした。王は神々と人間社会を調和する宗教的機能と、人間社会を安定・繁栄する政治的機能が期待されたが、前者がより重視された。また、ラーは時代ごとに王の守護神と結びついたため、特定の神官団が強大化した。新王国時代には、戦功や豊穡はテーベの守護神アメン(アモン)神のおかげとされ、王は寄進を繰り返した。王位継承にも影響力を持った神官団に対応したのが、アメンヘテプ4世であった。唯一神としたアテン(アト)神への接触は王と王妃のみとして、専制君主的な神権政治の確立を目指した。しかし、祭祀を王が独占したためアテン神信仰は人々に広がり、急激な改革で国内も混乱した。王の死後、アメン神官団が復権する。次王ツタンカーメンは、名前を「アテンの生き生きとした似姿」から「アメンの似姿」へ改名し、首都をテーベに戻した。授業では、ミイラや死者の書などから来世的な傾向が強くなる神々への信仰が篤かったことなどに気が付けさせる。ピラミッドが太陽神信仰に関係し、その造営は宗教的な労働奉仕の可能性のあることなども紹介するとよい。それ故に神官団の権威は高まりやすくなり王権の脅威となったことを説明し、生徒にファラオとしてどのような対策をおこなうか考えさせる。その後、アメンヘテプ4世が創作した「アテン讃歌」を紹介し、アテン神の印象を尋ねる。生徒は、太陽、特に太陽光に關係する神、創造神、唯一神、シリア・ヌビアにも影響を与える神といったことを読み取るだろう。そして、王がアテン神を賛美した理由を、王権と神官団の關係から判断させる。最後に、教科書本文や図版アメンヘテプ4世



図版 4 ナイル川の水位と農耕 ナイル川は毎年9月に最大水量となる。堤防で耕地をため池のように囲み、上流から運ばれた水でため池(貯水)を築いた。

◎古代ギリシアの歴史家ヘロドトス(約484～425)は「エジプトはナイルのたまご」に象徴される。



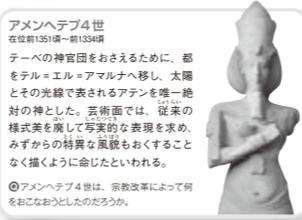
図版 5 ピラミッド(奥)と守護神スフィンクス 最大のクフ王のピラミッドは、基辺230m、高さ146.5mあり、建設には専門の職人が1年を費して従事した。

リア高原に強力な国家を建設し、メソポタミアに遠征してバビロン第1王朝を滅ぼし、さらにシリアにも進出してエジプトと戦った。ヒッタイト人はメソポタミアに定住しなかったため、諸民族が侵入し、前15～前14世紀以降、諸王国が並立する複雑な政治状況が生まれた。

メソポタミアでは、言語の違いをこえて多くの民族に「楔形文字」が用いられ、粘土板に刻まれた。また太陽暦や週7日制、時を刻む単位となった六十進法をはじめとする実用の学問も発達した。

エジプトの統一国家 エジプトではナイル川の増減水目を利用して豊かな農業がおこなわれた。大規模な治水の必要からメソポタミアより早く、前3000年頃には王(ファラオ)による統一国家がつけられた。以後、約30の王朝が交替したが、そのうちもっとも繁栄したのが古王国・中王国・新王国の3時代である。エジプトの王は、生ける神として専制的な神権政治をおこなった。古王国はナイル川下流域のメンフィスを中心に築き、クフ王が巨大なピラミッドを築かせた。中王国時代には、中心は上エジプトのテーベに移ったが、その末期にシリア方面から遊牧民ヒクソスが流入し、国内は一時混乱した。しかし前16世紀にヒクソスを撃退して新王国が成立し、さらにシリアへと進出した。前14世紀にはアメンヘテプ4世が1つの神(アテン)だけを信仰する宗教改革をおこなったが、この改革は王の死で終わった。

エジプト人の宗教は太陽神ラーを中心とする多神教で、新王国時代にはテーベの守護神アメンの信仰と結びついたアメンラーの信仰が盛んになった。エジプト人は霊魂の不滅を信じてミイラをつくり、「死者の書」を残した。碑文や墓室・石棺などには神聖文字(ヒエログリフ)を刻み、バビルス草からつくった一種の紙も用いた。また、エジプトでは測地術が発達するとともに、太陽暦が用いられた。



アメンヘテプ4世 テーベの神官団をおさえるために、都をテル=エル=アマルナへ移し、太陽とその光線で表されるアテンを唯一絶対の神とした。芸術面では、従来の様式美を崩して写実的な表現を求め、みずからの特異な風貌をおくることがよく描くように命じたとされる。

◎アメンヘテプ4世は、宗教改革によって何をおこなったのだろうか。

を紹介し、エジプトの王権の特徴についてまとめさせる。

アテン讃歌 あなたは天の地平線から美しく現れる、あなたは生けるアテン、生命の始まり。……あなたの光線は、あなたの創った万物の果てまでも、地をも包み込む。……おお、並ぶもの無き唯一の神、あなたは御自身の望むがままに世界を創られた、お一人で。すべての人間、家畜、そして野の獣、地上にあって足で歩くものすべて、高みにあって翼で飛ぶものすべてを。シリアやヌビアの国、エジプトの国、あなたはすべての人々に各自にふさわしい賜を与え、彼らの求めに応じ日々の糧を与え、その人生の長さを決めた。彼らの語る言語は異なり、彼らの気質も同様に異なる。彼らの肌の色は違う、あなたが異国のの人々を区別して創られたから。(歴史学研究会編「世界史史料1」岩波書店より)

▶ テーベのアモン神官団を抑える。アト(アテン)神へのすべての接触を王が独占し、王族の地位を引き上げる。専制君主的な神権政治の確立。



図版 8 「死者の書」 白灰で衣子に塗る「死者の王」オシリスの前で、死者が最後の審判を受けている様子が描かれている。

り、「死者の書」を残した。碑文や墓室・石棺などには神聖文字(ヒエログリフ)を刻み、バビルス草からつくった一種の紙も用いた。また、エジプトでは測地術が発達するとともに、太陽暦が用いられた。

東地中海の諸民族 東地中海沿岸のシリア・パレスチナ地方は、エジプトとメソポタミアを結ぶ通路として古くから交易で栄えていたが、前12世紀頃よりセム語系の人々が特色ある活動を始めた。

アラム人はシリアに多くの都市国家をたて、ダマスカスを中心に内陸の中継貿易で活躍した。そのためアラム語はオリエントの国際商業語として広まり、アラム文字は前8世紀にラビア文字など多くの文字のもととなった。

フェニキア人はシドン・ティルスなどの都市国家をつくらせて地中海貿易を独占し、カルタゴなど多くの植民市をたてた。また、彼らの用いた文字はギリシアに伝わってアルファベットに発展し、のちのヨーロッパ諸言語の文字のもととなった。

ヘブライ人(ユダヤ人)は遊牧民であったが、パレスチナに定住した。彼らは統一王国をたて、王国は前10世紀頃に繁栄した。しかし、のちに王国は南北にわかれ、北のイスラエル王国は前8世紀にアッシリアに滅ぼされた。南のユダ王国も前6世紀に新バビロニアに征服され、多数の住民がその都であるバビロンにつれられて、約50年後に解放された(バビロン捕囚)。こうした試練のなかで、ヘブライ人は唯一の神ヤハウェへの信仰を固く守るとともに、この神により選ばれた民族としての自覚を強め、救世主(メシア)を待ち望む信仰であるユダヤ教を生み出した。彼らがバビロンから帰国後に確立したこの宗教の教典は、のちにキリスト教の教典ともなって「旧約聖書」と呼ばれ、ヨーロッパ人に



図版 7 バビロンのイシュタル門(復元) 「バビロン」捕囚をおこなったネブカドネザル2世(在位前604～前562)は、イシュタル門のほか、「空中庭園」「バベルの塔」などの建築で有名で、高いバビロンの再建につとめた。

◎ヘブライ人は他民族による呼び名で、彼ら自身はイスラエル人と称した。またバビロン捕囚後は、ユダヤ人と呼ばれることが多い。

◎「旧約聖書」によれば、一部はエジプトに移住したが、新王国の圧政に苦しみ、前13世紀頃に指導者モーセに率いられてパレスチナに脱出した(「出エジプト」)。

教科書本文には掲載していない補足の資料解説も適宜示しています。

図版 9 ロゼッタ=ストーン 古代エジプトの象形文字解読の重要な手がかりとなった玄武岩でできた碑文で、上段の神聖文字(ヒエログリフ)14行、中段の民用文字(デモティック)32行、下段のギリシア文字54行からなる。前2世紀初めのファラオ、プトレマイオス5世の恩恵を講じるメンフィス神官団の布告文を3種類の文字で刻んだもので、1799年8月、ナポレオンのエジプト遠征に従軍したフランスの将校によって発見され、現在は大英博物館に所蔵されている。当初研究者たちは破損の少ない中段の民用文字の解読に挑んだが成功せず、フランスのシャンポリオンがヒエログリフ内のカルトゥーシュと呼ばれる王名符の一つ、ギリシア語の「プトレマイオス」の表記を比較し、その綴りから解読の糸口を見つけ出した。1822年、彼はこの解読の成果をパリ学士院で発表し、近代エジプト学が創設されることとなった。



図版 10 「死者の書」 「死者の書」は古代エジプト新王国時代以降、おもにバビルスに記されて死者とともに埋葬された、死後の安全を守り、その幸福を祈るための葬祭用絵文書である。死者の魂が来世への危険な旅をおこなうために役立つ様々な呪文が記されている。本図は右端に座るオシリスの前で、山犬頭の守護神アヌビスが心臓と正義の秤量をおこなっている場面が描かれている。秤量の結果を記録しているのが神々の書記である文字と知恵の神トト(トキ頭)で、絵では死者の弁明が正しく天秤と釣り合っているが、偽りの場合はアヌビスの隣にいる。頭部はフニ、上半身はハイエナ、下半身はカバの怪物に食われることになっている。上部には陪審員たちが、またオシリスの前には天空の神ホルス(ハヤブサ頭)が控えている。このように「死者の書」は色彩豊かな挿し絵が添えられ、新王国時代後半から末期王朝時代にかけての作品には特に美術的価値が高いものが多い。(大英博物館蔵)

図版 11 フェニキア人の海洋交易 フェニキア人はレバノン杉を用いた造船だけでなく、レバノン杉そのものを海路輸出し繁栄した。レバノン杉はまっすぐな幹で材質が固くオリエント各地の建築材として重宝された。フェニキア人は深紅染料や象牙細工でも知られていた。航海技術に長けており、東地中海だけでなくスペインやアフリカ沿岸、ブリテン島までたどり着いた記録がある。こうした彼らの地中海交易によって、1文字1音素で表記するフェニキア文字がギリシアへ伝播する要因となった。フェニキア文字はエジプトの象形文字が基礎にある。最初の二つの文字A・アルファは牛、B・ベータは家の象形文字が源流である。「アルファベット」という語は、この二字に由来している。

図版 12 バビロンのイシュタル門 10万人にのぼる人々が生活したバビロンの繁栄の象徴がイシュタル門であり、青い地の彩釉煉瓦でおおわれ、牡牛などの動物が描かれている。ネブカドネザル2世はバビロン捕囚を3回にわたっておこなない、バビロンだけでなくバビロニア地方全域に入植させた。一方で、民族別に入植させたため、移住させられた人々は民族意識をもちつづけられた。また、ある程度自治を許され、商人や職人として成功した者もいた。

教科書の記述の解説も適宜示しています。

高校世界史

関連教材

第1章 文明の成立と古代文明の特質

2 古代オリエント文明とその周辺③ / 3 南アジアの古代文明①

指導上の留意点

- 1 クノッソス宮殿を分析させ、エーゲ文明の王政について理解させる。
- 2 ③から、アッシリアの台頭やオリエント世界の拡大の様子を理解させる。
- 3 ③から、アッシリアの宗教的儀式を分析させ、その神権政治の特色を理解させる。
- 4 2節まとめから、オリエント世界の神権政治を比較させ、その多様性を説明させたり、人々の視点などから再定義させたりする。

③ 図版 復元されたトロイアの馬 ホメロスの「イリアス」「オデュッセイア」に記されたトロイア戦争と木馬の計について説明し、エーゲ文明について興味関心を持たせたい。シュリーマンはこうした神話伝承を参考に、トロイア発掘以後、ミケーネやティリスなどでも発掘を行い、ミケーネの獅子門や「アガメムノンのマスク」など多数の遺跡・遺物を発見した。私たちの周りにある神話伝承と事実の関係を説明するところまでできる。

③ 図版 ③クノッソス宮殿 クレタ文明の宮殿は中庭を取り囲むように、王・支配者の居住区、貯蔵庫、工房などの建物配置された。祭司的な支配者の住み場所であるとともに、地方の村々から集めた生産物を貯蔵庫で管理し分配することで、その権威を維持した。クノッソス宮殿は迷宮伝説でも知られ、その貯蔵庫は最大1万8千人分の食料を供給可能であった。図版のフレスコ画は、王妃の間と呼ばれる部屋に復元され、イルカのほかに小魚、黒色でウニなどが描かれている。ミケーネ文明と同様な支配の仕組みに、オリエントの専制支配原理を導入したとされる。文書には王が労働や軍事に多くの人々を動員したことも記されている。各地でオリエントの二輪戦車のレリーフが出し、ヒッタイト石造技術を用いたミケーネの獅子門のような城塞も造られた。授業では、図版のクノッソス宮殿のフレスコ画や迷宮伝説などから興味を持たせる。そして、クノッソス宮殿の見取り図を用意して、大規模な貯蔵庫の存在に気がつかせ、その働きを探究させる。自然環境の視点から集められた生産物を考えさせても面白い。王・支配者の祭司的な性格と物資の再分配による権威付けという王政の特色を認識させたい。また、ミケーネ文明では、獅子門の写真を用意して、堅固な城壁をめぐらせた宮殿が各地に出現したことを説明し、王や支配者にどのような性格が加わったかを探究させたい。オリエント世界の影響なども分析させ、専制的な支配がおこなわれた可能性を考える。

③ 図版 ③アッシリアと4王国 東地中海の諸民族の活動によって交易網が発展する中で、アッシリアはアナトリアとメソポタミア・イランの交易ルートを押さえて繁栄の基盤を確立した。明示されている成立期の領域からその発展の理由に気づかせたい。前7世紀のアッシュルバニパル王が領土を最大にした。4王国では、最強を誇った新バビロニアやメディアに着目させたい。前者、

の領域は、教科書p.30で示されている豊かな「肥沃な三日月地帯」と重なることを指摘させたい。後者は、歴史史料に登場した最初のイラン系の人々であり、ペルシア人も支配下におき、中央アジアまで領域を広げていることに気が付かせたい。

④ ▶ アッシリアはティグリス・ユーフラテス川とナイル川流域を中心とした地域を支配したが、新バビロニアが肥沃な三日月地帯を支配し最強を誇り、メディアがイラン高原を、エジプトが地中海沿岸部をそれぞれ支配し、オリエント世界を東西に拡大し発展させた。

③ 図版 ③アッシュルバニパル王の狩猟 本図版はアッシュルバニパル王(在位前668～前627)が戦車から槍でライオンを倒す様子を表現したニネヴェの壮麗な王宮に残る浮き彫りである。別の石版には倒されたライオンが神殿に奉納される様子も彫られている。メソポタミアには、かつてライオンが息絶して古来からの王の役割を想起させるとともに、社会秩序の安定の祈願でもあった。アッシュルバニパルは王としては例外的に文字を読むことができ文武両道の王であり、自らもこのことを誇ってニネヴェに図書館を設けている。アッシリアの歴代の王は好戦的とみなされがちであるが、最高神「アッシュル」の意志を実行する「副王」として社会的公正・



アッシュルバニパル王の狩猟 アッシリア王の勇猛とライオン狩りへの関心を示している。ライオンは王の象徴と見なされ、倒したライオンは王の権威の象徴と見なされた。ライオンは王の象徴と見なされ、倒したライオンは王の権威の象徴と見なされた。

思想・芸術活動の大きな源泉となった。エーゲ文明と交易で結びついていた東地中海沿岸には、エーゲ文明と呼ばれる宮殿文明が誕生した。この文明は、まずクレタ島で栄えた。前2000年頃に始まるクレタ文明期には、王が宗教的に大きな力をもち、中心地クノッソスには大宮殿が建てられた。この文明を担った人々の民族系統は不明であるが、彼らは

城壁をもたず、開放的で明るい文明を築いた。一方ギリシア本土では、北方から移住してきたギリシア人が、前16世紀からミケーネ文明を築きはじめた。戦術的であった彼らは、ミケーネ・ティリスなどに石づくりの城塞を中心とした小王国を築き、その勢力はクレタ島やトロイア(トロヤ)にまでおよんだ。これらの小王国では、王が役人組織を従えて地方の村々から農産物・家畜や武器などの手工業製品を王宮に集め、それらを需要に応じて再び各地に分配した。

しかし、前1200年頃ミケーネ文明の諸王国は突然滅び、混乱のなかで、多くのギリシア人が本土からエーゲ海一帯に移住した。

オリエント世界を最初に統一したのは、北メソポタミアにおこなったアッシリアである。この王国は前7世紀前半、鉄製の武器と騎馬戦術による強力な軍事力で全オリエントを征服した。



③ 図版 ③アッシリアと4王国の領域 ③アッシリアと4王国の領域を比べて、オリエント世界の拡大について説明しよう。

34 1 文明の成立と古代文明の特質

融和を実現させることが、理想的な王の役割として考えられていた。このことは、伝統的なメソポタミア王の働きに通じるものがある。一方で、様々な文化を背景とする民族と広大な領土を統治するという意味でのオリエント初の「帝国」の王であり、その支配は強制捕囚政策のように強圧的であった。

④ ▶ 猛獣に立ち向かう王の強さを示して、王は人々を守るという古来からの王の役割を想起させるとともに、社会秩序の安定を祈願した。

2 節まとめ メソポタミア文明とエジプト文明、エーゲ文明、アッシリアの王権を比較し共通点や相違点を整理する。そして、古代オリエント世界の神権政治を生徒各自で再定義させたい。例えば、次のように考察させることができる。オリエント文明の王権は神と結びつくことで、専制的な支配を確立し、強力な軍隊を組織し官僚制を整えた。専制的な支配の仕組みはエーゲ文明など同地域にも影響を与えた。一方で、神の代理人としてのメソポタミア王の責務は、神の規範の維持や都市の防衛・豊穡だけでなく、社会正義の実現が重視された。エジプト文明の王は太陽神ラーの妻子とされこの世でのラーの役割を演じた。メソポタミアと比べて、政治(行政)的機能よりも宗教(祭祀)的機能をより重視した。エーゲ文明では物資を分配することで、祭司として王の権威を高めるなど、王権と経済の結びつきが特色といえる。アッシリアは、メソポタミアの伝統的な神権政治の特色を踏まえつつ、「帝国」の支配の仕組みを整えたが強圧的であった。こうした考察を踏まえて、神権政治の多様性を説明させる。また、神権政治を王や神との関係からではなく、人々との関係から再定義させよ



アッシュルバニパル王の狩猟 アッシリア王の勇猛とライオン狩りへの関心を示している。ライオンは王の象徴と見なされ、倒したライオンは王の権威の象徴と見なされた。

統治した。しかし、王国は重税と圧政によって服属民の反抗をまねき、まもなく崩壊した。その後のオリエント世界には、エジプト・リディア・新バビロニア(カルデア)・メディアの4王国が目立つようになった。

南アジアの古代文明 古代の南アジアにおいて、王の役割とはどのようなものであったのだろうか。

南アジアの風土と人々 南アジアは、現在のインドを中心に、ヒマラヤから中央部の砂漠やデカン高原、インドス川やガンジス川そしてインド洋の島々に至る多様な地域である。季節風(モンスーン)の影響を強く受け、雨季と乾季の差がはっきりしており、夏と冬の寒暖差のある北部地域と、年間を通じて気温の高い南部地域とが大きく二分される。南アジアでは雨季に稲、乾季に麦が栽培され、牛や羊などの飼育を組み合わせた生産活動がおこなわれてきた。人々は、大きくアーリヤ系とドラヴィダ系にわかれ、古くから異民族が混入し、それまで暮らしてきた民族とまじわりつつも完全に同化されてしまうことはなく、多くの民族・言語・宗教が共存する独自の世界が形成された。

南アジア最古の文明は、前2600年頃におこなった青銅器時代の都市文明で、ドラヴィダ系と考えられるインダス文明である。インドス川流域のモエンジョ＝ダロ遺跡やハラッパーを代表とする同文明の遺跡は、すぐれた都市計画にもとづいてつくられ



③ 南アジアの古代文明 35

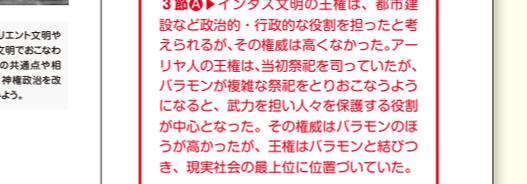
ても面白い。神権政治が人々の生活を安定させ豊かにするものであったのか話し合わせることもできる。

④ ▶ オリエント文明の王権は神と結びつくことで、専制的な支配を確立した。その仕組みはエーゲ文明など同地域にも影響を与えた。一方で、メソポタミアの王権は社会正義の実現を重視したのに対し、エジプトの王権は神として宗教的な役割を重視した。エーゲ文明の王権は生産物の再分配など経済的な働きを重視した。このことから、古代の神権政治は、神に王権が結びつき専制的な支配を可能にさせたが、重視された王権の責務は多様であった。

指導上の留意点

- 1 ③から、モエンジョ＝ダロ遺跡・遺物を分析させ、インダス文明の王権の特色について理解させる。
- 2 ③からアーリヤ人の自然崇拜の特色と農耕社会への展開を考察させ、バラモン教やシャトリアなど階級分化が進んだことを理解させる。
- 3 ③からアーリヤ人の王権とバラモンの関係を読み解き、カースト制の背景や社会への働きを説明させる。

3節▶インダス文明の王権は、都市建設など政治的・行政的な役割を担ったと考えられるが、その権威は高くなかった。アーリヤ人の王権は、当初祭祀を司っていたが、バラモンが複雑な祭祀をとりおこなうようになると、武力を担い人々を保護する役割が中心となった。その権威はバラモンのほうが高かったが、王権はバラモンと結びつき、現実社会の最上位に位置していた。



③ 図版 ③モエンジョ＝ダロ出土の印章 一辺2～4cm、厚さ1cmほどの滑らかな凍石でつくられた1232個の印章が発掘されている。印章はメソポタミアにみられるような円筒式ではなくスタンプ式で、商人が商取引の帳簿に押し印したり、商品などを泥で封じた際の押印などに用いられたと思われる。押印には呪術の意味合いが強かったと考えられ、牛や角獣などの神聖視されていた動物とインダス文字と呼ばれる象形文字が刻まれている。こうした印章はメソポタミアの遺跡からも出土するため、両文明の交流が明らかになっている。

③ 図版 ③モエンジョ＝ダロ出土の印章 一辺2～4cm、厚さ1cmほどの滑らかな凍石でつくられた1232個の印章が発掘されている。印章はメソポタミアにみられるような円筒式ではなくスタンプ式で、商人が商取引の帳簿に押し印したり、商品などを泥で封じた際の押印などに用いられたと思われる。押印には呪術の意味合いが強かったと考えられ、牛や角獣などの神聖視されていた動物とインダス文字と呼ばれる象形文字が刻まれている。こうした印章はメソポタミアの遺跡からも出土するため、両文明の交流が明らかになっている。

③ 図版 ③モエンジョ＝ダロ遺跡 ほかの古代文明では、日干し煉瓦が一般的であるが、インダス文明では、縦4：横2：厚さ1という比率の焼き煉瓦が大量に用いられている。またほかの古代文明にみられる、巨大な墓、神殿に相当するものはインダス文明にはない。都市を守る城壁は低く、武器類も貧弱であり、王権がそれほど強力ではなかったと推定される。最大のモエンジョ＝ダロやハラッパーでも1km程度である。

④ ▶ 巨大な墓、神殿などはなく、都市も少しく規模であるため、王権はそれほど強大ではなかった。

75

節のまとめ、節末の問いの解答例を示しています。

世界史探究教科書共通

教師用指導書 研究編

B5判・504頁 定価5,500円

山川出版社の世界史探究教科書で共通してご使用いただけます。大きいテーマを扱う「基本考察」、各用語ごとの「用語解説」、「エピソード」「参考文献」を『詳説世界史』の配列に沿って記しています。

③ 図版 ③モエンジョ＝ダロ出土の印章 一辺2～4cm、厚さ1cmほどの滑らかな凍石でつくられた1232個の印章が発掘されている。印章はメソポタミアにみられるような円筒式ではなくスタンプ式で、商人が商取引の帳簿に押し印したり、商品などを泥で封じた際の押印などに用いられたと思われる。押印には呪術の意味合いが強かったと考えられ、牛や角獣などの神聖視されていた動物とインダス文字と呼ばれる象形文字が刻まれている。こうした印章はメソポタミアの遺跡からも出土するため、両文明の交流が明らかになっている。

③ 図版 ③アッシリアと4王国の領域 ③アッシリアと4王国の領域を比べて、オリエント世界の拡大について説明しよう。

③ 図版 ③アッシリアと4王国の領域 ③アッシリアと4王国の領域を比べて、オリエント世界の拡大について説明しよう。

34 1 文明の成立と古代文明の特質

教師用指導書 授業実践編 付属データ集

世探705準拠



『教師用指導書 授業実践編』にはデータ集DVD-ROMが付属します。
授業準備やテスト問題の作成に、ぜひご利用ください。

付属データ集DVD-ROM 収録予定コンテンツ一覧

教科書データ	①教科書紙面	PDF	教科書全ページの紙面データ
	②教科書本文・注・史料テキスト	Word	本文・注・史料のテキストデータ
	③教科書掲載地図・図表	JPEG	カラー・モノクロ2種の画像データ
	④教科書掲載問い・解答例一覧	Excel	問いと解答例の一覧
	⑤指導書紙面	PDF	指導書全ページの紙面データ
	⑥板書例テキスト	Word	板書例のテキストデータ
	⑦年間指導計画・評価規準例	Excel	カリキュラムにあわせて加工が可能
教科書準拠教材	⑧授業用スライド	PowerPoint	教科書の節ごとに構成 問いの解答例も収録
	⑨授業用スライド対応ワークシート	Word	スライドに対応したワークシート
	⑩準拠テスト例	Word	小問ごとに観点別評価を明記 テストに対応したルーブリック(評価規準表)例付き
	⑪準拠ノート	PDF Word	『高校世界史ノート』の紙面データ
	⑫白地図集	JPEG	プリント用・黒板用2種の画像データ

①教科書紙面 PDF ②本文・注・史料テキスト Word ③地図・図表 JPEG

教科書の紙面PDF、本文・史料のテキストデータ、地図・図表データを収録しています。
プリントやスライドの作成などにご利用いただけます。

1 文明の誕生

約1万年前に氷期が終わると地球は温暖化し、自然環境が大きく変化した。新石器時代には、農耕や家畜飼育が盛んになり、食料の生産が安定した。これにより、人口が増え、集住が始まった。農耕や家畜飼育は、食料の生産を安定させ、余剰を生み出した。この余剰は、社会の発展を支え、文明の誕生を促した。

文明の成立

初期の農耕は雨任せで、また肥料を用いない方法が多かった。しかし、メソポタミアでは現在のイラクにあたる地域で、灌漑農業が始まり、食料の生産力が高まり、余剰が生み出されるようになった。この余剰は、社会の発展を支え、文明の誕生を促した。

文明の誕生は人々の関心を惹きつけた。このように、文明の誕生は、人々の関心を惹きつけた。

⑧授業用スライド PowerPoint

- 教科書の節ごとに構成されています。
- 学習のポイントを明示し、要点を理解しやすく工夫しています。
- 授業スタイルにあわせて編集が可能です。

高校世界史p.30~35
第1章 文明の成立と古代文明の特質

2 古代オリエント文明とその周辺

Q 古代オリエント文明やエゲ文明の王は、どのように人々を支配したのだろうか。

Q 様々な王朝が興亡したメソポタミア地方は、どのような地形をしているのだろうか。

1-2 古代オリエント文明とその周辺

オリエント世界と東地中海沿岸の風土と人々

オリエントの風土

オリエント…「日ののぼるところ」ローマの「東方」
乾燥して気温が高い。砂漠・草原・岩山が多い
→遊牧やオアシス農業

大河…**メソポタミア**のティグリス川・ユーフラテス川
エジプトのナイル川
→定期的な川の増水を利用した灌漑農業

⑨授業用スライド対応ワークシート Word

授業用スライドに対応したワークシートもご用意しています。

高校世界史 p.30~35
第1部 諸地域の歴史的特質の形成
第1章 文明の成立と古代文明の特質

2 古代オリエント文明とその周辺

Q 古代オリエント文明やエゲ文明の王は、どのように人々を支配したのだろうか。

オリエント世界と東地中海沿岸の風土と人々

オリエントの風土

……**オリエント**……「日ののぼるところ」ローマの「東方」
乾燥して気温が高い。砂漠・草原・岩山が多い
→遊牧やオアシス農業

大河……**メソポタミア**……のティグリス川・ユーフラテス川
……**エジプト**……のナイル川
→定期的な川の増水を利用した灌漑農業

Q 様々な王朝が興亡したメソポタミア地方は、どのような地形をしているのだろうか。

……**メソポタミア**……のティグリス川・ユーフラテス川流域の平野。両大河に挟まれ、洪水に襲われた。

メソポタミアの統一

……**シュメール**……人が……**都市国家**……を形成(紀元前2700年ころ)
……**ウル**・……**ウル**……などの都市国家。互いに争う
王・神官・役人・戰士が実権を握り階級社会を形成
都市の神を祀る壮大な神殿や王宮……**ジグurat**(聖塔)
……**アッカド**……人がメソポタミア南部を統一(前24世紀ころ)

Q 王が壮大な神殿をつくった目的は何だったのだろうか。

王はジグuratを建設し祭儀権を掌握することで、宗教的権威による統治を進めた。また、大規模なジグuratを建造することで、王の権力を示すことができた。

メソポタミアの統一

……**アムル**……人が……**バビロン**……を建国(前19世紀初め)
……**アッシリア**……人がメソポタミアを統一(前18世紀ころ)
運河や交易路を整備、法慣習を集めて法典を定める
……**ハンムラビ**……による政治

オリエントの社会=大規模な治水・灌漑をおこなう必要
→一統する王が神やその代理人として大きな権力をもつ……**神権政治**……が成立

東地中海沿岸の風土

夏乾燥・冬少雨。石灰岩の丘→オリーブなどの果樹栽培や羊の牧畜
東地中海沿岸の社会
重要な交通路として様々な文明が発達

10 準拠テスト例 Word

<1章ごとにA4約10枚収録>

- 教科書の章ごとに構成されています。
- 小問ごとに観点別評価を明記しています。
- 様々なパターンの出題形式を用意しています。

資料 1

196. 他人の目をつぶしたならば、自分の目をつぶさなければならない。

199. 他人の奴隷の目をつぶしたり、他人の奴隷の骨を折ったならば、奴隷の値段の半額を支払わなければならない。

生徒 A: (I) が書かれています。
 先生: 素晴らしい。よく読み取れていますね。
 生徒 B: 先生、僕はナイル川流域で栄えた文明を知っています。エジプト文明ですね。
 先生: その通りです。どのような特徴があったか覚えてますか。
 生徒 B: 閉鎖的な地形で外敵の侵入を受けにくく、約 30 の王朝が交替しましたが、そのうち王国ではギザの三大ピラミッドが作られました。宗教は太陽神ラーを中心とする多神教で、エジプト人は靈魂の不滅を信じてミイラをつくり、そこには死後の案内書である②「死者の書」がええられました。
 生徒 C: あれ？ Bさんの(II)の部分が違います。正しくは(III)です。
 先生: さすが古代史が得意な Cさん、正しい指摘ですね。でも Bさんもよく知っていましたね。
 生徒 B: 少し間違えてしまいましたが、エジプト文明にはとても興味があります。このあいだミイラ展にも行ってきました。

問 1 会話文中の空欄(i)に当てはまる語句を答えよ。【知識・技能】

問 2 会話文中の空欄(I)に当てはまる文を 20~30 字以内で答えよ。【思考・判断・表現】

問 3 会話文中の空欄(II)・(III)に当てはまる語句を答えよ。【思考・判断・表現】

問 4 会話文中の下線部①について、古代アメリカ文明に関する記述として正しいものを、つぎの A~E から 1 つ選べ。【知識・技能】

問題ごとに【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】のいずれに相当するのを示しています。

- 準拠テスト例に対応した「ルーブリック（評価規準表）例」を収録しました。A・B・Cの具体的な規準を例示しています。

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する
知識・技能	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について総合的にとらえて理解しているとともに、複数の資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について理解しているとともに、複数の資料から情報を調べまとめる技能を身につけている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について理解や、資料から情報を調べまとめる技能が十分に身につけていない。
思考・判断・表現	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質に関わる諸事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目し、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質に関わる諸事象について、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質に関わる諸事象について、資料の読み取りが不十分で、適切な考察にもとづき表現していない。
主体的に学習に取り組む態度	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について、みずから関心をもって学習に取り組み、振り返りを効果的に活用し、課題を主体的に探究しようとしている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について、みずから関心をもって学習に取り組み、振り返りを活用し、課題を探究しようとしている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について、学習への取り組みが不十分で、振り返りを活用できていない。

11 準拠ノート PDF Word

- 『高校世界史ノート』の紙面データは、PDFとWordの2種類を収録しました。
 ※PDFデータには、一部を除き写真も掲載しています。

PDF

Word

12 白地図集 JPEG

- プリントなどの作成に便利な白地図データは、プリント用・黒板用の2種壘をご用意いたします。



高校世界史ノート

- 『高校世界史』中の「探究しよう」のページは、ワークシート形式にしています。

【教科書】

宋代の開封はどのような都だったのだろうか

開封は黄河と大運河の合流地点に位置する都市であり、華北の交易の要衝として栄えた。

私は国子監で学ぶ者である。今日は私の暮らす開封の街を皆さんに紹介したい。

開封の街は三重の城壁からできており、4本の運河が流れている。正店とは庭園をもつ高級酒樓のことで、開封にはそのような店が数多くある。瓦市とは盛り場のことである。

国子監からまっすぐ北上すると電津橋にでる。電津橋から州橋にかけては、夏には胡麻豆腐、砂糖をまぶしたかき氷、ボケの実エキスのジュース、緑豆の砂糖漬、甘草で甘味をつけた氷水などが売られている。これらの店は午前零時頃まで商売をしている。

朱雀門は、宋の第2代太宗の太平興国4(979)年、改名された。この年、皇帝は北漢を併合し天下統一を果たしたが、遠に散れ燕雲十六州の奪還に失敗した年である。

州橋とその東の祖國寺橋は、大型船が通過できない平橋であったため、汴河をさかのぼってきた物資は祖國寺橋より東側で荷下ろしされた。朱雀門を入ると大相国寺がみえる。大相国寺は開封最大の仏教寺院であり、皇帝の紅雲も観音におこなわれた。

相国寺の境内では、毎月5回民衆の市場が開かれる。変わった動物や日用品なども、様々なものが売られている。さらに地方から届けた官儀が持参した各地の産物も

出品されている。その裏側には古い師や不思議な術を見せる者もいて、賑わっている。

州橋を渡った御街の幅は約300mにおよぶもので、様々な儀礼がおこなわれた。

まっすぐ進むと宮城の宣徳門に至る。東華門の街路は東華門街と呼ばれ、開封で1、2を争うにぎわいである。東華門は、官儀が出退勤する通用門であり、宮中への物資の搬入口でもあった。一方西華門はめったに開閉せず、その門外には、殿前司という軍管やバシアの宗教施設、蘇圃があった。

宣徳門から東進すると金銀交易所があり、道の反対には潘楼酒店がある。界隈では毎日早朝から市がたち、羊の頭や臓物・かに・あさりといった食物が並ぶ。朝市がすんでも次々に店が出る。さらに進むと一帯には芝居小屋が50余ある。なかには数千人を収容できるものもあり、素売り・古着売り・床屋・切り紙芸人・小唄うたいなどの店もあって、賑わっている。

馬行街を北上すると旧封丘門である。この両側には、医院や薬屋が並ぶ。このほか、各種の店が並び、州橋の百倍にはぎやかで、車馬は道いっぱい、足止めすることができないほどである。本日に開封は活気にあふれた良い街である。

(元老人久高直弘「宋史」東京事録を参考に作成)



Q1 文中の太字を地図上でたどって、その区域・施設の特徴を確認しよう。

Q2 文中の下線部の語句を、辞典やインターネットを利用して調べてみよう。

Q3 文中の波線部について、以下のことをインターネットや文献を使って調べてみよう。

国子監：どのような施設だろうか。

燕雲十六州：この土地の重要性は何かだろうか。

官儀：宋代の官儀の社会的地位とはどのようなものだろうか。

金銀交易所：宋代はどのような通貨が利用されていたのだろうか。

宋代の開封はどのような都だったのだろうか

開封は黄河と大運河の合流地点に位置する都市であり、華北の交易の要衝として栄えた。当時の人物になりきって、開封を歩いてみよう。

私は国子監で学ぶ者である。今日は私の暮らす開封の街を皆さんに紹介したい。

開封の街は三重の城壁からできており、4本の運河が流れている。正店とは庭園をもつ高級酒樓のことで、開封にはそのような店が数多くある。瓦市とは盛り場のことである。

国子監からまっすぐ北上すると電津橋にでる。電津橋から州橋にかけては、夏には胡麻豆腐、砂糖をまぶしたかき氷、ボケの実エキスのジュース、緑豆の砂糖漬、甘草で甘味をつけた氷水などが売られている。これらの店は午前零時頃まで商売をしている。

朱雀門は、宋の第2代太宗の太平興国4(979)年、改名された。この年、皇帝は北漢を併合し天下統一を果たしたが、遠に散れ燕雲十六州の奪還に失敗した年である。

州橋とその東の祖國寺橋は、大型船が通過できない平橋であったため、汴河をさかのぼってきた物資は祖國寺橋より東側で荷下ろしされた。朱雀門を入ると大相国寺がみえる。大相国寺は開封最大の仏教寺院であり、皇帝の紅雲も観音におこなわれた。

相国寺の境内では、毎月5回民衆の市場が開かれる。変わった動物や日用品なども、様々なものが売られている。さらに地方から届けた官儀が持参した各地の産物も

出品されている。その裏側には古い師や不思議な術を見せる者もいて、賑わっている。

州橋を渡った御街の幅は約300mにおよぶもので、様々な儀礼がおこなわれた。

まっすぐ進むと宮城の宣徳門に至る。東華門の街路は東華門街と呼ばれ、開封で1、2を争うにぎわいである。東華門は、官儀が出退勤する通用門であり、宮中への物資の搬入口でもあった。一方西華門はめったに開閉せず、その門外には、殿前司という軍管やバシアの宗教施設、蘇圃があった。

宣徳門から東進すると金銀交易所があり、道の反対には潘楼酒店がある。界隈では毎日早朝から市がたち、羊の頭や臓物・かに・あさりといった食物が並ぶ。朝市がすんでも次々に店が出る。さらに進むと一帯には芝居小屋が50余ある。なかには数千人を収容できるものもあり、素売り・古着売り・床屋・切り紙芸人・小唄うたいなどの店もあって、賑わっている。

馬行街を北上すると旧封丘門である。この両側には、医院や薬屋が並ぶ。このほか、各種の店が並び、州橋の百倍にはぎやかで、車馬は道いっぱい、足止めすることができないほどである。本日に開封は活気にあふれた良い街である。

(元老人久高直弘「宋史」東京事録を参考に作成)

Question 1 資料中の太字の場所を赤で囲もう。

【解答】1 資料中の太字の場所を赤で囲もう。

【解説】2 地図中の距離約7.2kmは実測では6.8kmである。電津橋から宣徳門が実測で1.8kmだとすると、距離は約何倍になるだろうか。また徒歩1分の距離が約90mだとすると、この距離は何分かかるだろうか。

【解説】3 文章を参考にして、金銀交易所の位置に赤印をつけよう。

Question 2 文中の太字や下線部の語句のうち、以下のものをインターネットや文献を使って調べてみよう。

運河： 潘楼

朱雀門： 行宮： 紅雲

Question 3 文中の波線部について、以下のことをインターネットや文献を使って調べてみよう。

国子監：どのような施設だろうか。

燕雲十六州：この土地の重要性は何だろうか。

官儀：宋代の官儀の社会的地位とはどのようなものだろうか。

金銀交易所：宋代はどのような通貨が利用されていたのだろうか。

Question 4 教科書の「情報上列図」や以下の文章を参照して、開封の街の一部を想像して書いてみよう。その際、説明文に、匂いや音なども想像して記入しよう。

*中庭では音楽、食肉としては羊が最も、鶏は下駄とされた。鳥も飼われて羊に似て飼われ、鳥と似たものも飼われて、鶏は、鶏しほりなど多種多様な品種が飼われており、飼われた天然水を用いて砂糖をかけたものも多かった。鳥料理も多種あり、鴨料理が特に好まれ、鶏は改良された。

Question 5 『東京事録』を読み、当時の人々の生活をより深く探究しよう。

高校世界史基本用語問題集 ツインズ・マスター

世探705・704準拠

A5判 160頁+解答16頁 2色刷 定価990円(10%税込) ISBN978-4-634-04132-5

- リード文の穴埋めと一問一答、2種類の出題形式で重要用語を繰り返し学習する問題集です。
- 基本的な歴史の流れをつかみながら、重要語句を効率よく覚えることができます。
- 解答欄のスペースは大きく、直接書きこみやすくなっています。

「高校世界史」「詳説世界史」に対応しています。

左ページと右ページの解答が同じ用語なので、繰り返し、多面的に学習できます。



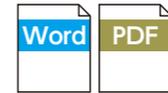
書きこみやすい解答欄。

左ページはリード文の穴埋め問題で流れを理解します。

右ページは一問一答で用語を確認します。

「地図問題」「資料問題」など、地図や写真を用いた設問も掲載しています。

ご採用特典として ①本文テキストデータ (Word) ②解答あり&解答なしの書籍紙面データ (PDF) ※書籍紙面データには、許諾上の理由から写真は掲載しておりません。をご提供いたします。



年間指導計画・評価規準例 (※3単位、年間105時間)



学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての素養・能力を育成することを旨とする。

使用教科書・副教材

教科書：『高校世界史』
副教材：『高校世界史ノート』
『詳説世界史図録』

◎：部へのアプローチに関するもの ●：節のまとめに関するもの

部	章	節	配当時数		学習内容とねらい
			月	授業時数	
				103時間	
第1部 諸地域の歴史的特質の形成	1 文明の成立と古代文明の特質	第1部へのアプローチ	6月	11	◎生業、身分、宗教、王権などを観点にして、ウルのスタンダードを読み解きながら、興味や疑問をもとに問いを表現する。
		1. 文明の誕生		3	◎農耕と牧畜の社会的影響を分析し、支配観念(王権)の成立要因を探究する。 ・集住・土器・石器の特色とその社会的影響を考察し、獲得経済から生産経済への変革を理解する。 ・灌漑農業・都市・金属器・文字による社会的影響を考察し、文明の成立を理解する。 ●貧富の差の拡大や仕事の分業化などの社会的影響について多面的多角的に考察し、支配観念(王権)が形成されたことを理解する。
		2. 古代オリエント文明とその周辺		4・5	◎神権政治の特色とその伝播を分析し、王の存在意義を探究する。 ・メソポタミア文明やエジプト文明、エーゲ文明の神権政治の特色を考察し、それぞれの神権政治の共通点や相違点、相互の関係性について理解する。 ・メソポタミアやエジプトの高度な文化の特色を考察し、エーゲ文明への影響や現代社会への影響を理解する。 ●古代オリエント文明とその周辺で行われた神権政治を多面的多角的に考察し改めて神権政治を定義することで、神権政治の多様性を理解する。
		3. 南アジアの古代文明		6・7	◎神権政治の特色及び他地域の神権政治の共通点・相違点を分析し、王の存在意義を探究する。 ・インダス文明とアーリア人の神権政治を考察し、南アジアの神権政治の推移と特色を理解する。 ●南アジアと古代オリエントの神権政治の共通点・相違点を比較して、古代世界の神権政治の多様性を理解する。
		4. 中国の古代文明		6・7	◎神権政治の特色とその現代的影響を分析し、王の存在意義を探究する。 ・殷・周・春秋戦国時代の神権政治の特色を考察し、神権政治の推移や多様な展開を理解する。 ・殷・周・春秋戦国時代における神権政治の現代世界へ影響を理解する。 ●中国の古代文明で行われた神権政治を多面的多角的に考察し、その多様な展開と現代的影響を理解する。
	5. 南北アメリカ文明		6月	11	◎神権政治の特色及び他地域と共通点・相違点を分析し、王の存在意義を探究する。 ・マヤ文明・アステカ文明・インカ文明の神権政治を考察し、中南米の先住民文明の神権政治を理解する。 ●アメリカ大陸とユーラシア大陸の神権政治の共通点・相違点を比較して、古代世界の神権政治の多様性を理解する。
第1部 諸地域の歴史的特質の形成	5 イスラム教の成立とヨーロッパ世界の形成	1. アラブの大征服とカリフ政権の成立	6月	11	◎イスラム教の誕生と、その領域拡大の状況と分析し、イスラム教が社会をどのように変えたのかを探究する。 ・軍事征服を通してのイスラム領域の拡大について考察し、イスラム教の特徴や軍事征服された地域の社会の変化について理解する。 ・イスラム教権威の継承について考察し、イスラム社会各地域の特徴や相互の関係性、現代への影響を理解する。 ・イスラム文化について考察し、イスラムの進出地域と文化の融合や特徴と現在の社会への影響を理解する。 ●イスラム教の誕生と西アジア、北アフリカへの領域拡大の経緯について、各地域の政治、文化の変容や現代へのつながりについて改めて定義し、理解する。
		2. ヨーロッパ世界の形成		24・25	◎キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界の形成の経緯を分析し、各国ごとの特徴を探究する。 ・ゲルマン人の移動とローマ帝国内への複数の部族国家形成の状況について考察し、今日への影響を含めて理解する。 ・ビザンツ帝国が独自の文明を築いた状況を考察し、ゲルマン人侵入の影響を強く受けた西ヨーロッパ世界との相違点や共通点について理解する。 ・西ヨーロッパにおける王朝、文化、宗教の展開について考察し、東ヨーロッパ世界と比較したり関連付けたりして、ヨーロッパ世界形成の多様性を理解する。 ●キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界の形成の状況を、多面的、多角的に考察し改めて定義することで、ヨーロッパ世界の多様性を理解する。

※小社HPに全体のExcelファイルを用意しています。

科目全体の評価の観点(指導要領の目標)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史的に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

知識・技能	評価の規準			評価方法
	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価方法	
・観点に基づいて、ウルのスタンダードから情報を読み取り、効果的にまとめている。	・「戦争の場面」と「平和の場面」に描かれた人々の生活や身分、宗教的行為、役割などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点である生業、身分、宗教、王権などについて考察し、問いを表現している。	・第1部に関わる諸事象について、課題意識や見通しをもって学習に取り組もうとしている。	グループ活動の授業プリント	
・狩猟・採集を中心とする獲得経済から農耕・牧畜による生産経済への多様な発展の仕方を理解する。 ・世界各地で多様な文明が成立したことを理解する。 ●世界各地で多様な支配観念(王権)が形成されたことを理解している。	・集住の変化や土器・石器の発達の背景や影響、相互の関連に着目し、新しい社会的関係の形成について多面的多角的に考察し、表現している。 ・灌漑農業の開始や都市の誕生、金属器の作成、文字の発明の背景や影響、相互の関連に着目し、国家・文明の形成について多面的多角的に考察し、表現している。 ●貧富の差の拡大や仕事の分業化などの社会的関係を多面的多角的に考察し、支配観念(王権)の形成について表現している。	発展学習1：神権政治に基づく専制的な政治が、人々の生活を安定させ豊かにするものであったのか話し合い、より良い社会形成のための政治のあり方を主体的に追究しようとしている。 発展学習2：第1部のアプローチでつくった問いについて、古代文明の歴史的特質と関連付けで追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならぬかを自身で確認できている。 発展学習3：古代文明の学習を振り返り、「王権」などの学習の視点や方法について確認し、次の諸地域世界(中央ユーラシアと東アジア世界)について、学習の視点や方法などのつながりを見いだそうとしている。	授業プリント・ペーパーテスト	
・灌漑農耕が行われた大河流域のメソポタミアやエジプトの王による政治・経済・文化の特色を理解している。 ・メソポタミアやエジプトは高度な文化を形成し、周辺地域や現代社会へ影響を与えたことを理解している。 ・エーゲ海域にオリエント文明の影響を受けて生まれたエーゲ文明の政治・経済・文化などの特色を理解している。 ●古代オリエント文明とその周辺で行われた神権政治の多様性を理解している。	・シュメール人、アッカド人、アムル人の王の政策の変化や社会への影響を比較したり関連付けたりして、メソポタミアの政治・経済・文化の特色を多面的多角的に考察し、表現している。 ・古王国時代、中王国時代、新王国時代のファラオによる政策の変化や社会への影響を比較したり関連付けたりして、エジプトの政治・経済・文化の特色を多面的多角的に考察し、表現している。 ・東地中海の諸民族の活動及び古代オリエント文明とエーゲ文明を比較したり関連付けたりして、エーゲ文明の政治・経済・文化の特色を多面的多角的に考察し、表現している。 ●古代オリエント文明とその周辺で行われた神権政治を多面的多角的に考察し、改めて神権政治を定義する。		ペーパーテスト・グループ活動の授業プリント	
・インダス文明における王の役割を理解している。 ・アーリア人の王とカースト制の関係を理解している。 ●南アジアと古代オリエントの神権政治の共通点・相違点から、神権政治の多様性を理解している。	・インダス文明のモエンジョ＝ダロやハラッパーの計画性や出土品の特色に着目して、南アジア初期の王の役割の特色を多面的多角的に考察し、表現している。 ・アーリア人の王権とカースト制が結びついた背景やその影響に着目して、アーリア人の王の役割の特色を多面的多角的に考察し、表現している。 ●南アジアと古代オリエントの王権と宗教との関係を比較して、他地域の神権政治の共通点・相違点を考察し、表現している。		ペーパーテスト・グループ活動の授業プリント	
・殷・周の王による政治・経済・文化の特色とその現代的影響を理解している。 ・春秋・戦国時代の政治・経済・文化の特色とその現代的影響を理解している。 ●中国の古代文明における神権政治の多様な展開とその現代的影響を理解している。	・殷から周への支配の仕組みの推移やその現代的影響などに着目して、殷・周の王による政治・経済・文化の特色を多面的多角的に考察し、表現している。 ・春秋・戦国時代の諸侯・王による支配の仕組みを比較したり、その現代的影響に着目したりして、春秋・戦国時代の政治・経済・文化の特色を多面的多角的に考察し、表現している。 ●中国の古代文明における神権政治について、その推移や多様な展開の比較、現代的影響に着目して、多面的多角的に考察し、表現している。		ペーパーテスト・グループ活動の授業プリント	
・マヤ文明・アステカ文明・インカ文明といった先住民文明における政治・経済・文化の特色を理解している。 ●アメリカ大陸の先住民文明とユーラシア大陸の神権政治の共通点・相違点から、古代世界の神権政治の多様性を理解している。	・マヤ文明・アステカ文明・インカ文明の王と宗教との関係や経済・文化の特色を比較して、先住民文明における政治・経済・文化の特色を多面的多角的に考察し、表現している。 ●アメリカ大陸の先住民文明とユーラシア大陸の古代文明における王権と宗教の関係や経済・文化の特色を比較して、他地域の神権政治の共通点・相違点を考察し、神権政治の共通性や多様性を表現している。		ペーパーテスト・グループ活動の授業プリント	
・軍事征服を通して、イスラム領域が西アジア全体、北インドと拡大してゆき、軍事征服された地域の文化や社会を変容させていく状況について理解している。 ・ムハンマド死後のイスラム教権威の継承の状況や、その特徴や社会の変容の経緯を理解している。 ・イスラム世界に組み込まれた地域の文化とイスラム文化が融合してゆく状況や、今日の社会に与えた影響を理解している。 ●イスラム教が西アジア、北アフリカへの領域拡大と並行して伝播した経緯と、各地域の政治、文化の変容について理解している。	・軍事征服による領域の拡大とその経緯を、周辺諸地域の状況と関連付けたりしながら多面的多角的に考察し、表現している。 ・カリフ政治の始まりや、ウマイヤ朝、アッバース朝の展開とカリフの権威の継承の経緯や特徴を、多面的多角的に考察し、表現している。 ・イスラムと征服した各地の文化の融合の特色を、元来の文化の在り方と比較しながら多面的多角的に考察し、表現している。 ●イスラム教が西アジア・北アフリカを変容させていく状況を多面的多角的に考察し、再定義する。	発展学習1：あなたにイスラム世界と組み込まれた地域の社会の変化が、人々の生活にどのような変化をもたらしたのか、また人々の生活を安定させ豊かにするものであったか話し合い、より良い社会形成のための政治のあり方を主体的に追究しようとしている。 発展学習2：ヨーロッパ世界形成の意味を、西ヨーロッパとビザンツ帝国を宗教や政治体制のあり方から比較、関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならぬかを自身で確認できている。 発展学習3：イスラム世界やキリスト教文化圏の研究を軸に、宗教の伝播のあり方や影響に関する学習の視点や方法について確認し、つながりを見出そうとしている。	ペーパーテスト・グループ活動の授業プリント	
・ゲルマン人のローマ帝国内への移動と部族国家形成の状況と国家ごとの特色、部族国家形成が今日にまでつなげる影響を持つことを理解している。 ・ゲルマン人侵入の影響を強く受けた西ヨーロッパ世界と比較したうえで、ビザンツ帝国の形成した独自の文明の在り方としての宗教や社会体制などを理解している。 ・西ヨーロッパにおける王朝、文化、宗教のあり方や展開を確認し、ヨーロッパ世界形成の多様性を理解している。 ●キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界の形成の状況を多面的多角的に考察し、改めて定義する。	・ローマ帝国内に樹立された複数のゲルマン人部族国家の興亡について比較したり関連付けたりして、ゲルマン人による国家形成の特徴や社会への影響を多面的多角的に考察し、表現している。 ・ビザンツ帝国の宗教の在り方、政治における王権の状況、文化の特徴を、西ヨーロッパ世界と比較したり関連付けたりして多面的多角的に考察し、表現している。 ・フランク王国の形成と分裂に至る過程、封建社会の成立ローマ＝カトリック教会の力の伸長などを比較したり関連付けたりして、西ヨーロッパ世界の特徴を多面的多角的に考察し、表現している。 ●キリスト教を軸とするヨーロッパ世界の特徴を多面的多角的に考察し、改めて定義する。		ペーパーテスト・グループ活動の授業プリント 小論述	

指導者用デジタル教科書(教材) 学習者用デジタル教科書

世探704準拠 世探705準拠 世探706準拠

- デジタル教科書は「指導者用」「学習者用」とともに **[インストール版]** **[クラウド版]** をご用意しています。



※画像は『詳説世界史』のサンプルです。

サンプル版は
こちら！



指導者用



学習者用

※サンプルは『詳説世界史』より抜粋

★ご注文の前にご確認ください★

「指導者用デジタル教科書(教材)」と「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は、それぞれ別の商品のため、混同されないようにご注意ください。

- 「指導者用デジタル教科書(教材)」は、教科書の電子書籍版に教材アプリの機能がついた商品です。

- 「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は紙面PDFや図版データ、スライド、準拠テスト例などが収録されたコンテンツ集です。

⇒p.28 ⇒p.58
⇒p.84

教師用指導書 授業実践編付属データ集DVD-ROM

教科書紙面PDF

教科書図版データ
JPEG

教科書テキストデータ
Word

指導書紙面PDF

授業用スライド
PowerPoint

準拠テスト例
Word

評価規準例
Excel

「指導者用デジタル教科書(教材)」と「学習者用デジタル教科書」の違い

- ビューアの基本機能(ズーム表示や書き込み等)は「指導者用」「学習者用」共通です。
- 「指導者用」には、授業に便利な独自のアプリ機能がつきます。
- 価格は(⇒p.92)をご覧ください。

「指導者用デジタル教科書(教材)」 「学習者用デジタル教科書」 共通機能

	検索	用語を入力して掲載ページを検索・移動します。		道具	タイマー、ふせん、ポインター、リンク貼り付けなどが使用できます。
	ペン マーカー	色、透明度、太さの設定が変更できます。		記録	書き込みをした内容の保存、読み込みができます。
	図形 スタンプ	図形は色、透明度、太さが選べます。スタンプは初期登録の素材の他、画像データを読み込んで貼ることができます。		表示設定	全画面表示への切替や、紙面上のクリックポイントの表示などの設定ができます。
	消す	消しゴムでの部分消去や全消去、「元に戻す/やり直す」操作ができます。		ズーム	紙面の拡大表示ができます。
	リンク	教科書紙面の二次元コードは動画や文書のアイコンとなっており、動画視聴Webサイトや関連コンテンツへとリンクします。※オンライン環境が必要です。			

「指導者用デジタル教科書(教材)」 独自機能

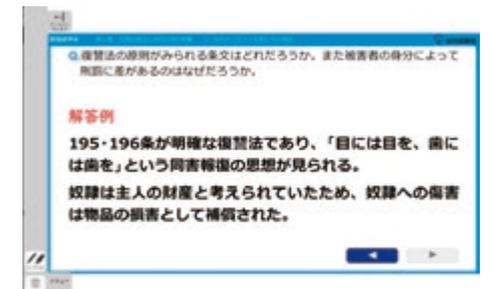
●地図・グラフアプリ

アプリアイコン がついている地図・グラフは、凡例(領域・矢印など)やデータ系列ごとに表示/非表示の切替えができます。必要に応じて、特に説明したい要素だけを表示することができます。



●Q&Aアプリ

デジタル紙面の発問の部分をクリック/タッチすることで、問いかけに対する解答例のスライドを表示することができます。
(問いかけのスライド・解答例のスライドをボタンで切り替えることが可能です)



指導者用デジタル教科書(教材) / 学習者用デジタル教科書

「インストール版」と「クラウド版」の違い

- 「インストール版」はDVDを納品します。各端末にインストールしてご利用ください。
※リンク先のサイトに遷移する際は、オンライン環境が必要となります。
- 「クラウド版」は各端末のブラウザでクラウドサーバーにアクセスしてオンライン環境にてご利用ください。

【インストール版】

【同一の学校建物内の指導者用端末に限りインストール数の制限なし】

- (インストール方法①) 各利用端末に直接インストールしてご利用ください。
※端末インストール(スタンドアロン)はWindows PCのみの対応となります。
- (インストール方法②) DVD-ROMに収録されているデジタル教科書のデータを学校・教育委員会等に設置されているWebサーバーにアップロードして各利用端末からアクセスしてご利用ください。 ※ファイルサーバーは動作保障環境の対象外です。

【クラウド版】

【校内フリーライセンス】

- 小社からライセンス証・学校管理者向けスタートガイドをお送りします。スタートガイドに沿って初期設定の作業をしていただくことで、完了後、ライセンス証記載のご利用開始日よりご利用いただけます。
- オンライン環境にて、各利用者端末から当社指定のクラウドサーバーへアクセスしてご利用ください。

指導者用 / 学習者用 デジタル教科書 商品概要

	指導者用デジタル教科書(教材)	学習者用デジタル教科書
税込み価格 (本体価格) ※インストール版、 クラウド版共通	①教師用指導書授業実践編 付属データ集DVD-ROM付 1冊 ②教師用指導書研究編 1冊 ③指導者用デジタル教科書 3点セット価格 定価55,000円(10%税込) (本体50,000円)	1人につき 定価1,100円(10%税込) (本体1,000円)
インストール版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
クラウド版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
ライセンス形態	学校内フリーライセンス ご購入いただくことで、学校内の指導者用端末で何台でもご利用が可能です。ライセンス有効期間は4年間となります。	1ユーザー1ライセンス 必要な人数分のライセンスをご購入いただき、学習者用端末でご利用ください。紙の教科書のご利用期間中はライセンスが有効となります。
利用者端末 動作環境	動作保証環境 ●iPad OS [®] ブラウザ: Safari ●Chrome OS [®] ブラウザ: Google Chrome ●Windows 10/11 ブラウザ: Microsoft Edge・Google Chrome ※iPad OS・Chrome OSはクラウド版、または学校内Webサーバー環境のみご利用可能。インストール版(DVD版)の端末インストールはご利用いただけません。	
基盤システム	デジタル教科書の提供・表示ビューアの基盤となるシステムとして「みらいスクールプラットフォーム」(https://www.mirai-school.jp/platform/)を採用しています。専用のビューアはMicrosoft Edge、Google Chrome等のブラウザで動作します。	

※紙の教科書をご採用いただいた場合に限り、対応する「指導者用デジタル教科書」「学習者用デジタル教科書」のライセンスをご購入いただくことが可能です。

※本資料のデジタル教科書の画面イメージ・記載内容は開発中の情報を含むため、製品版において変更になる場合があります。

約13,000点の地歴コンテンツが定額制で使い放題!

Webの **社 会 科 準 備 室**

山川&二宮ICTライブラリ

山川&二宮ICTライブラリは、地理・歴史の教育コンテンツを定額制でご利用できるWebサービスです。

図表
年表

地図

グラフ
統計



スライド

動画

プリント

●簡単検索!

フリーワード検索はもちろん、科目・時代・分野・地域やコンテンツの種類にチェックを入れるだけで簡単に検索・絞り込みができます。また、2022年5月より〈書籍別検索〉機能を追加。関連するコンテンツのリンク機能も充実し、さらに便利になります。

●コンテンツ解説文

画像や動画には解説文がついています。生徒の興味や関心を引き出すための導入や、プリント作成時の参考文献として活用できます。

●マルチデバイス対応

ひとつのアカウントで、パソコン・タブレット・スマートフォンなど様々なデバイスからご利用になれます。

ご利用中の先生の声

これまで190校を超える学校様にご採用いただきました!

- ・Google動画や自然地理アニメなど活用しています。(東京都私立高校)
- ・指導書を個別に購入するよりもコストパフォーマンスがよく、価格相応と感じます。(静岡県公立高校)
- ・授業準備の時間が短縮されました。マルチデバイスは便利です。(東京都私立高校)
- ・コンテンツがクラウドにあるので、ROMからダウンロード等の手間がなく、大変効率的です。(大阪府私立高校)

まずは無料トライアルを!

法人向け定額制コースをご検討の学校様には、ほぼすべてのコンテンツを2週間お使いいただける〈無料トライアルパック〉をご用意しています。詳しくはこちらのサービスサイトをご覧ください。▼

料金プラン

法人向け定額制コース **77,000**円/年(税込)

- ・地理歴史・公民科にご在籍の先生でしたら何名様でもご利用できます。
- ・同一敷地内の中高一貫校様は、中学校・高等学校ともご利用になれます。

個人向け定額制コース **1,320**円/月(税込)

- ・クレジットカード決済のみのお取り扱いとなります。
- ・領収書の発行も可能です。

サービスのお申し込み/
詳しいご説明はこちらから

<https://ywl.jp/service>



ICTライブラリ サービスサイト 検索

世界史探究 著作者一覧

(2023年3月現在・五十音順)



詳説世界史 世探704

世界史の枠組みを体系的に学べる信頼の教科書

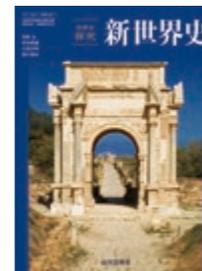
- ★バランスよく、わかりやすい丁寧な記述
- ★時代の特色をつかむ多様な問いかけ
- ★探究活動に取り組みやすい大きな図版・豊富な史資料



高校世界史 世探705

基本をおさえて、資料で深める

- ★要点をおさえた、わかりやすい教科書
- ★「探究」の構造を理解できる、問いを中心とした展開
- ★資料読み解きのスキルが身につく



新世界史 世探706

考える歴史の時代に向けて新しく生まれ変わった『新世界』

- ★現代世界を知るための歴史的視座を養う教科書
- ★「考える」「理解する」「追究する」教科書
- ★図版・地図・史資料を読み解く力がつく教科書

林 佳世子 (はやし かよこ)

東京外国語大学学長

オスマン帝国史

- 詳説世界史
- 高校世界史



小豆畑 和之 (あずはた かずゆき)

東京都立西高等学校教諭

世界史教育

- 高校世界史
- 歴史総合707



岡本 聡 (おかもと さとし)

白陵高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



加藤 修治 (かとう しゅうじ)

武蔵高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



木村 靖二 (きむら せいじ)

東京大学名誉教授

ドイツ近現代史

- 詳説世界史
- 高校世界史



千葉 敏之 (ちば としゆき)

東京外国語大学教授

ドイツ中世史

- 新世界史



藤本 和哉 (ふじもと かずや)

筑波大学附属高等学校教諭

世界史教育

- 詳説世界史
- 歴史総合708



阿部 幸信 (あべ ゆきのぶ)

中央大学教授

中国古代史

- 詳説世界史
- 高校世界史



小川 正樹 (おがわ まさき)

函館ラ・サール高等学校教頭

世界史教育

- 新世界史



仮屋園 巖 (かりやぞの いわお)

東京都立国立高等学校教諭

世界史教育

- 高校世界史
- 歴史総合707



久保 文明 (くぼ ふみあき)

東京大学名誉教授・防衛大学校長

アメリカ現代史

- 新世界史
- 歴史総合708



丹羽 敬 (にわ たかし)

元愛知県立明和高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史

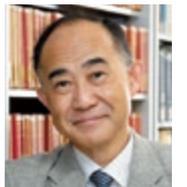


南川 高志 (みなみかわ たかし)

京都大学名誉教授・佛教大学特任教授

古代ローマ史

- 新世界史



池田 嘉郎 (いけだ よしろう)

東京大学准教授

ロシア近現代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 歴史総合707
- 中学歴史



小田中 直樹 (おだなか なおき)

東北大学教授

フランス社会経済史

- 新世界史
- 歴史総合708



岸本 次司 (きしもと つぐし)

元鳥取県立鳥取西高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



小松 久男 (こまつ ひさお)

東京大学名誉教授

中央アジア近現代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 歴史総合707



橋場 弦 (はしば ゆづる)

東京大学教授

ギリシア古代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 中学歴史



宮本 英征 (みやもと ひでゆき)

玉川大学准教授

世界史教育

- 高校世界史



石井 栄二 (いしい えいじ)

東京都立国立高等学校

世界史教育

- 詳説世界史



勝田 俊輔 (かつた しゅんすけ)

東京大学教授

アイルランド近代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 新世界史
- 歴史総合707



岸本 美緒 (きしもと みお)

お茶の水女子大学名誉教授

中国明清史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 新世界史
- 歴史総合707



島田 竜登 (しまだ りゅうと)

東京大学准教授

南アジア史・東南アジア史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 歴史総合707
- 歴史総合708



羽田 正 (はねだ まさし)

東京大学特任教授

イスラーム史

- 新世界史



村上 衛 (むらかみ えい)

京都大学准教授

中国近代史

- 詳説世界史
- 高校世界史



山川出版社ホームページ 収録データ 一覧

下記データは小社ホームページにアクセスしてご覧ください。

Topic!

● 観点別評価集計表 Excel

観点別評価の集計に便利なExcelファイルをご用意しました。
学校の先生が実際に使用しているシートです。
ホームページよりダウンロードしてご活用ください！



● 世界史探究教科書の紹介ページ

- ・教科書の特徴紹介
- ・教科書ダイジェスト版 PDF
- ・内容解説資料 PDF
- ・年間指導計画作成資料 Excel
- ・教科書紹介動画



● デジタル教科書

- ・商品概要
- ・サンプル版



● 教科書の訂正内容のお知らせ



● 山川&二宮ICTライブラリ サービスサイト



世界史探究の授業展開案は『歴史PRESS』の特集号もご参照ください！

『日本史探究・世界史探究』特集号

- ・歴史PRESS No.7 新課程教科書 授業展開案 など
- ・歴史PRESS No.8 新課程教科書 授業展開案 など

こちらから
ご覧ください



山川出版社

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469

<https://www.yamakawa.co.jp/>